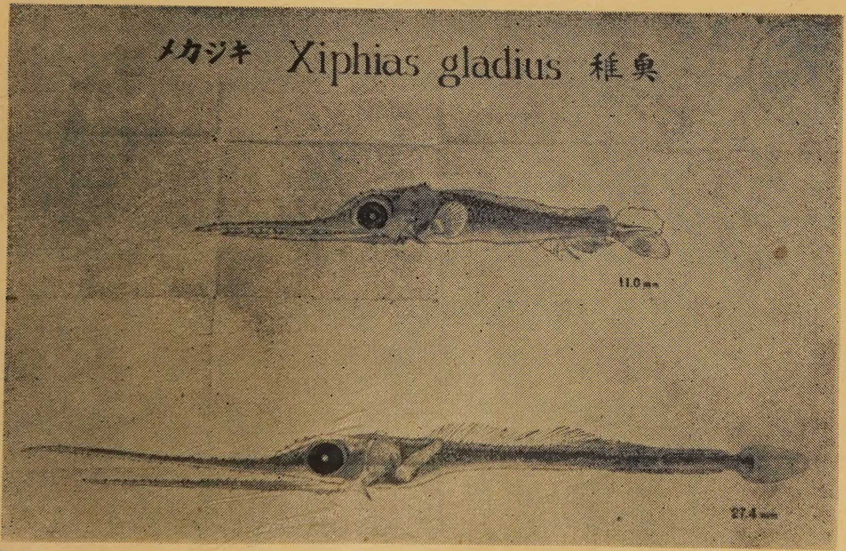
44

Feb 1957 operations

鮪漁業

Tuna Fishing


メカジキ Xiphias gladius 稚魚
11.0 mm
27.4 mm

—メカジキの幼魚—

APR 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE
SERVICE

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY
JAPAN

鮪漁業　研究会

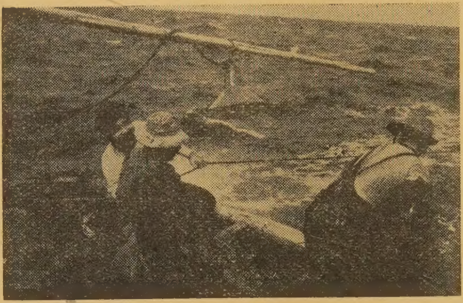
No. 44, 1957

倉敷ビニロン

クレモナ

万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



クレモナ鮪延縄　神奈川水試江の島丸

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

▷最高の技術═══永い信用◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧（41）（代）7171―9番
電話 武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町9　電話 芝（43）代表7373―9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）　電話 北浜（23）4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話 中（4）2589・8198番

―目 次―

鮪漁船紹介　第三十五黒潮丸　漁艇あけぼの10号　第二東水丸

鮪漁場図　（昭和32年2月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年2月現況）……………… 1

　1. 調査の概要…………………………………………………………………… 1

　2. 漁況の概要…………………………………………………………………… 1

　3. 各海区の漁況………………………………………………………………… 2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年2月操業分）別表 1……………………………10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年2月操業分）別表 2……………………………11

鮪類標識放流について………………………………………………………………………18

日米鮪類の豊凶と生産について………………東海大学産研水産研究部　井上元男……19

鮪類漁場別価格　昭和32年4月（三崎）…………………………………………………27

業界メモ………………………………………………………………………………………29

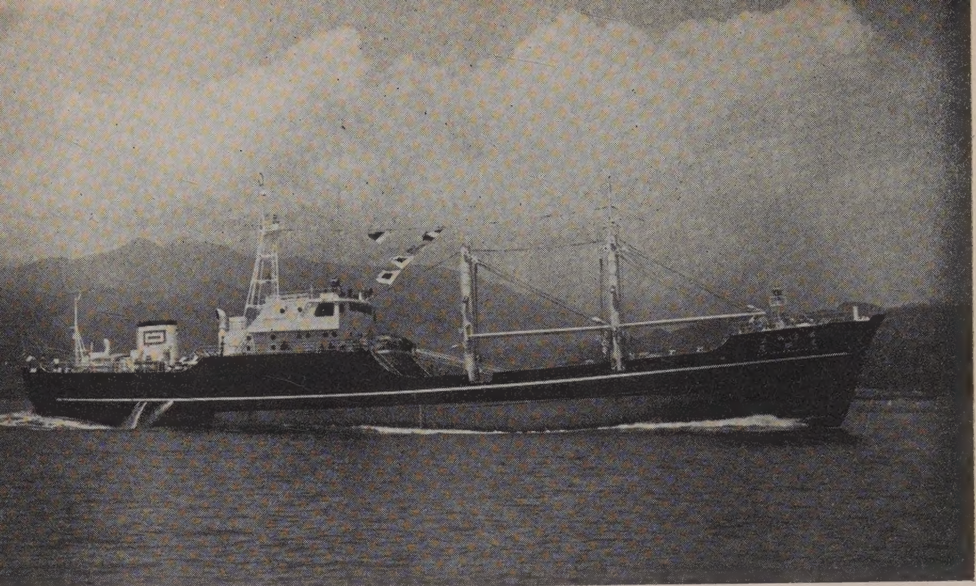
鮪類水揚価格表（三崎）昭和32年8月………………………………………………………30

強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

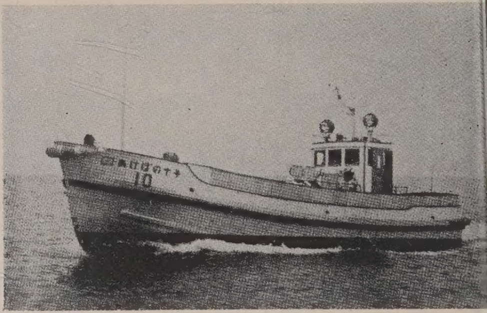
クレモナ テビロン　国産製麻株式会社

本社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番
工場　栃木県鹿沼市朝日町　電話(鹿沼)242・243番　同上野町　電話(鹿沼)377番



第三十五　黒　潮　丸

船　主	日魯漁業株式会社	
造船所	株式会社　三保造船所	
主要寸法	長62.70m×幅11.50m×深5.30m	
総屯数	1,158.72屯	
魚艙容積	$1,480m^3$	
燃料油艙	$475.3m^3$	
速　力	最大　13.61節	
主　機	デーゼル(過給機付)1,800IP (赤阪鉄工)	1基
補　機	デーゼル　270IP（ヤンマー）	3基
無　線	500W. 150W. 50W（日本無線）	各1基
冷凍装置	三菱電機MA8型　90IP	3基
	オッテセン凍結槽　日産 6,000貫	
	フラットタンク 3基　日産 3,000貫	
アクチブラダー装置	独プロイゲル社製　125IP　900R/M	
レーダー(東京計器), 方探(光電製作), 音測(産研), 電気水温計(日吉電機)　其の他		各1式
竣　工	昭和32年8月16日	



あけぼの10号

搭載漁艇（アルミ軽合金製）

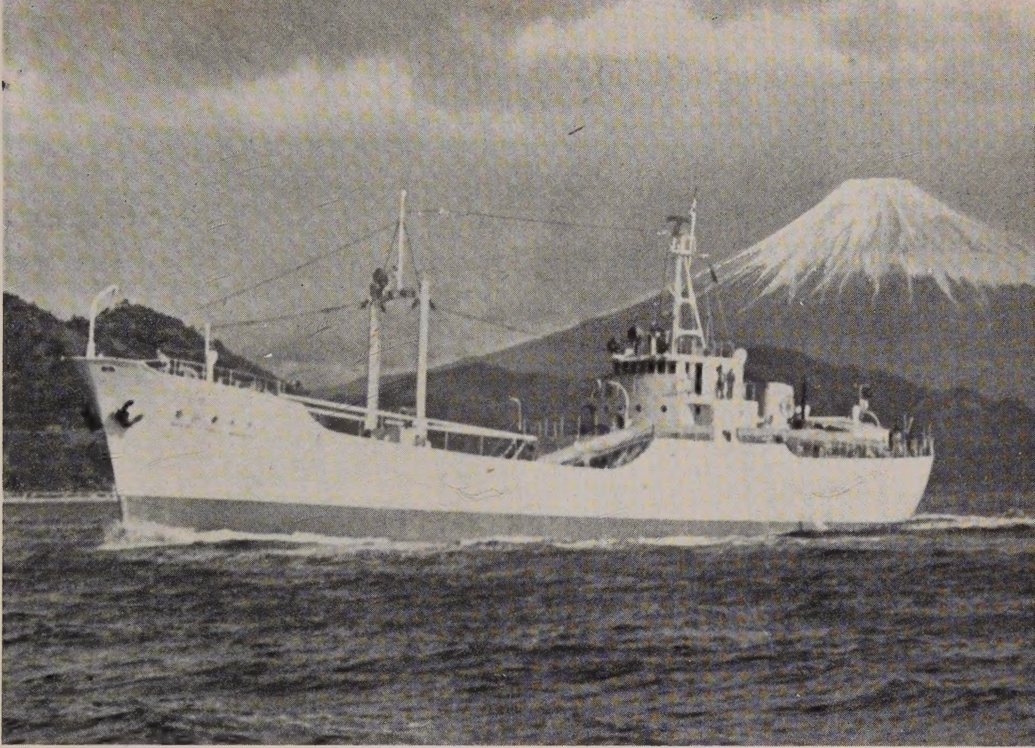
長14.6m×巾3.6m×深1.6m

総屯数	19.8屯	重　量	12.5屯
魚艙容積	$16.5m^3$	燃料油艙	600 ℓ
主　機	75IP（ヤンマー）1基		
速　力	最大　9.08節		
無　線	10W中短波電話　1基		
建造所	東造船株式会社		

株式会社　三保造船所

本　社　静岡県清水市三保3766　電話　代表 2200

東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話（27）5522.6775



第二 東 水 丸

船主	東都水産株式会社	
造船所	日本鋼管株式会社 清水造船所	
主要寸法	長50.80m×幅8.60m×深4.40m	
総屯数	596.78屯	
魚艙容積	670m³	
燃料油艙	270m³	
速力	最大 12.50節	
主機	デーゼル 1000HP	1基
補機	デーゼル 165HP	2基
無線	250W. 75W	各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 50冷凍屯	2基
レーダー，ジャイロコンパス，方探，魚探其の他		各1式
竣工	昭和31年1月4日	

アクチブラダー輸入発売元

第一物産株式会社

東京都港区芝田村町1の2
電話東京（27）代表0361 （28）1831

漁船の冷凍装置に定評ある

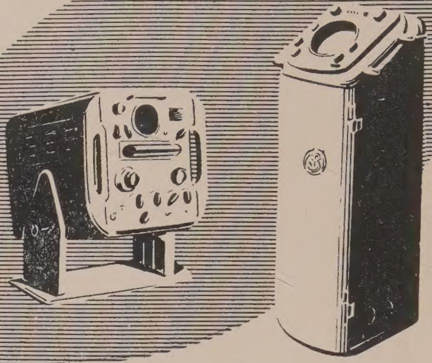
日新興業株式会社

本　　社 大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736—7（直通）1334.2351.9531
東京支店 東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所 清水市三保本村四区 TEL. 清水 3507
三崎サービスステーション 三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL.三浦851

施工船名
- 第3清寿丸
- 第16海幸丸
- 第18新造丸
- 第12全功丸
- 第18海王丸
- 昭和丸
- （其の他約参百隻）

能率的な航海は
信頼出来る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン



株式会社東京計器製造所

本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話（73）2211～9
出張所及びサービスステーション　神戸・函館・長崎・横浜　名古屋・下関

新しい鮪漁撈技術が生れます。
中層水温が水深と共に精密に刻々と見られる
水深温度計を装備下さい。

海洋社

東京都港区芝虎ノ門八城南ビル　電話（59）5089番

製造所　株式会社　日吉電機製作所

装備鮪漁船

35黒潮丸
12住吉丸
青雲丸
錦竜丸
飯島丸
15大洋丸
5寿福丸
21黒潮丸
神宮丸
1公洋丸
10事代丸
2盛秋丸
1昭和丸
其他

赤阪ディーゼル
各種漁船，捕鯨船，冷凍運搬船等の主機及び補機に！
50馬力—4,000馬力

株式会社　**赤阪鉄工所**

本　社　東京都中央区銀座1丁目3番地（千成屋ビル）
電話 京橋（56）4902～3番
大阪出張所　大阪市西区奥美町30　電話 新町（53）3602番
工　場　静岡県焼津市　電話 焼津（代表）2121～5番

鮮度保持は完璧な断熱魚艙より

保冷界に躍進するフオームスチレン斷熱材

〃インゼライト〃（INSELITE）

特徴
- ① 極めて輕い　比重 00.20～0.030　炭化コルクの$\frac{1}{10}$
- ② 熱傳導率が低い 0.030Kcal/mhc　炭化コルクの$\frac{2}{3}$
- ③ 殆んど吸水しない　腐敗する恐れが無い
- ④ 難燃性である
- ⑤ 運搬並に施工が極めて容易で工費が安く出來る

施工漁船並冷藏庫
才12 精良丸
才35 黒潮丸
才3 孝勇丸
水戸冷蔵　芝浦冷藏庫
大洋漁業　福岡冷藏庫
（其の他）

◇用途　冷凍冷藏庫保冷板　魚艙防熱板　その他一般保冷材

※型錄見本進呈※

東京　丸紅飯田株式会社特定工場

製造元　**湘南水產工業株式会社久里濱工場**

横須賀市川間163番地　電話（浦賀）798番
本社　三浦市三崎町六合3806の4　電話（三浦）362・370番

營業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場
急速・空氣凍結裝置
冷房裝置・冷凍機械器具
防熱裝置・船舶冷凍冷藏
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話下谷（83）0996番

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七（ナナ）洋（ヨウ）電（デン）機（キ）株式会社

取締役社長　満本英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原(78)4103番

太洋無線が世界に誇る

各種
陸上用
航空機用
船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区衆樂町48番地
電話澁谷(46)代表5283―9番

鋼木船造修一般

五百屯船台一基
四百屯船台二基

三崎船舶工業株式会社

神奈川県三浦市三崎港
(電話三浦343番)

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

(昭和32年2月現況)

三崎　鮪漁業研究会　(調査研究部)
神奈川県水産試験場　(資源部鮪担當)
東京，燒津　南海区水産研究所　(遠洋資源部)

1 調査の概要

昭和32年2月分として調査した鮪延縄船数は180, 体長測定船数は107, 調査海区数は21である。

2 漁況の概要

(キハダ)

ハワイ南西海区5°N以北は不漁、0°—15°S, 160°—140°Wの海域は10°S以南より以北の方が高率で好漁、タヒチ海区は上昇途上、西部太平洋亜熱帯海区は不漁、旧南洋庁沿海北部170°E以西は好漁、同以東は比較的高いが低下途上、沿海南部5°N以北は不漁、同5°N以南, 170°E以西とソロモン海区5°S以北、170°E以西は31年秋季からの激減を続けている。同海域170°E以東は上昇途上で、特に0°—5°Nの海域は好漁期直前、ソロモン海区10°S以南は低下途上であるが好漁、東部印度洋は好漁期末期、中、西部印度洋海区は1月の最盛期より激減した。猶、2月は大西洋が調査された。

(メバチ)

180°—140W, 5°N以北は好漁、北部太平洋は低下途上で不漁、旧南洋庁沿海北部170°E以東と沿海南部5°N以北は好漁、東部印度洋は不漁、中部印度洋は好漁、西部印度洋は不漁である。

(ビンナガ)

ミッドウエー海区北西端は比較的好漁、0°—15°S, 160°—140°Wの海域は不漁、タヒチ海区は1月から激減、南海々区、伊豆諸島東方海区、西部太平洋亜熱帯海区は極めて好漁、ソロモン海区10°S以南は好漁期に入つたがあまり高くない。東部印度洋はなお好漁、中部印度洋海区は好漁、西部印度洋海区は上昇途上である。

(インドマグロ)

東部印度洋の12°—20°S, 115°—130°Eの海域で再び高率を呈した。

(クロカワ)

太平洋赤道以北は不漁、以南は好漁、東部印度洋はなお好漁、アンダマン、ニユバル海区は上昇途上、中部印度洋海区は上昇途上、西部印度洋海区は好漁である。

(シロカワ、マカジキ、メカジキ)

北部太平洋、ソロモン海区10°S以南、東、中、西部印度洋海区共に不漁である。

3 各海区の漁況

A 赤道以南、140°W以東漁場

（0°—15°S, 140°—120°Wの海域）

5°S線の142°—124°Wで7隻が調査されているが、内1隻は0°—15°S, 160°—140°Wの海域でも操業して居り、2海区に分離したものである。海流については漁場圖参照のこと。

（キハダ）

船により釣獲率が著しく異り、最高5.4、最低2.5であるが、特に海域の差との関係はみられない。平均釣獲率は3.6で1月より稍高い。

体長組成は141—150cmにモードがあり、0°—15°S, 160°—140°Wの海域と同形である。

（メバチ）

キハダと同様、釣獲率の船による差は大きいが、1.5の低率は142°—129°Wの西方海域のみで、130°W以東で操業している他船は低率が3.0、高率が5.5を示している。平均釣獲率は3.77で、キハダと同様1月より稍高い。

（体長組成は161—170cmにモードがあり、141—150cmにある0°—15°S, 160°—140°Wの海域より著しく型が大きい。

（クロカワ）

1隻のみ0.4の率を示しているが、他は0.15から0.3、平均釣獲率は0.27で1月より僅かに低い。

体長組成は181—190、201—210cmにモードがあり、0°—15°S, 160°—140°Wの海域と同形である。

B 赤道以北、180°—140°W漁場

（30°—40°N, 180°—140°Wの海域、ミッドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以北）

30°—40°N, 180°—140°Wの海域では30°N線近くの170°—157°Wの海域で1隻、ミッドウエー海区では5隻が北端、内3隻は北西端で、ハワイ南西海区5°N以北では10°—11°Nの西端で5隻が調査されている。

ハワイ南西海区10°—11°N, 180°—170°Wの西流で、北赤道流域中にある。

（キハダ）

ハワイ南西海区5°N以北は上昇途上にあるが0.37で未だ不漁である。

体長組成は1月より僅かに型が小さくなつている。

（メバチ）

30°—40°N, 180°—140°Wの海域の率が3.71、ミッドウエー海区が2.20ハワイ南西海区5°N以北が3.26で、共に好漁期にあり、高率を示している。

体長組成は、1月に101—110、141—150cmにモードのあつた30°—40°N, 180°—140°Wの海域が、2月にはモードが、91—100、151—160cmに移つた他は、1月と大

差ない。

（ビンナガ）

30°—40°N, 180°—140°W の海域は、操業海域がビンナガの分布していない海域なので殆んど釣れていない。ミッドウエー海区は分布海域で操業しているが、しかも好漁期なので1.40でこの海区としては高率である。

体長組成は、30°—40°N, 180°—140°W の海域、ミッドウエー海区共に、1月より稍型が大きい。

（クロカワ）

ミッドウエー海区、ハワイ南西海区 5°N 以北共に不漁期で低率である。

（マカジキ）

30°—40°N, 180°—140°W の海域、ミッドウエー海区共に不漁期で低率である。

C 赤道以南、180°—140°W 漁場

（0°—15°S, 160°—140°W の海域、タヒチ海区）

0°—15°S, 160°—140°W の海域では 5°—10°S の 150°W 以東で1、以西で1、10°—15°S の 157°—153°W で1、タヒチ海区では北東端で2隻が調査されている。

（キハダ）

0°—15°S, 160°—140°W の海域は 10°N 以北と以南で全く異り、以北 3.4、以南 0.7、共に1月より著しく低下している。しかし、10°N 以北はもうしばらく好漁が続く見込みである。タヒチ海区は、上昇期であるが、2月1.24で10月以降僅かに上昇している程度である。

0°—15°S, 160°—140°W の海域の体長組成は1月と同形であり、又、前述したように、0°—15°S, 140°—120°W の海域とも同形である。

（メバチ）

0°—15°S, 160°—140°W の海域はキハダと同様10°S の南北で異り、以北 0.6、以南 0.1 を示している。共に不漁期のように推察されるが、1月は両海域とも比較的率が高く、この点が不明である。タヒチ海区は 11、12、1月と上昇して来たが2月に到り 0.1 と再び低率となり、この点も不明である。0°—15°S, 160°—140°W の海域の体長組成は、1月には 161—170cm に大きな山があり、131—140cm に小さな山があつたが、2月は 141—150cm にかたまつている。

（ビンナガ）

0°—15°S, 160°—140°W の海区は、キハダ、メバチと逆で、10°S 以北より以南の方が高く、以北 0.4、以南 1.1 を示している。但し、両海域共不漁期で夏季に比し極めて低い。

タヒチ海区は未だ周年變化の傾向がつかめないが、31年から32年にかけては、10、11、12月と著しく上昇して4.0に達した後、1、2月と激減して1.4となつた。

（クロカワ）

0°—15°S, 160°—140°W の海域の釣獲率は 0.76 で1月の 0.35 より遙かに高いが、

共に初冬の好漁からの低下過程にあるものと思われる。タヒチ海区は最盛期で、2.32を示し極めて高い。

（マカジキ）

タヒチ海区のマカジキは、不漁期で低率を続けている。

D 北部太平洋漁場

（伊豆諸島東方海区、南海々区、西部太平洋亜熱帯海区）

調査された海域及び海流は漁場圖を参照のこと。

（キハダ）

西部太平洋亜熱帯海区は不漁期であるが、南海々区も不漁期に入り、共に低率を示している。

（メバチ）

釣獲率は伊豆諸島東方海区が0.49、南海々区0.45、西部太平洋亜熱帯海区は170°E以東のみが2.82、170°E以西は0.30、を示している。170°E以東は、緯度に関係なく以西より高率を呈するが、2—3月は特に最盛期で、2.82の高率はこのためである。他海域は低下途上にあり、不漁期に入る。

体長組成は、どの海区も1月と全く同形である。

（ビンナガ）

西部太平洋170°E以東は、メバチと逆で以西より極めて低率で0.96、他は3海域とも好漁期、特に南海々区、西部太平洋亜熱帯海区はそれぞれ5.65、5.33で最盛期の高率を示している。猶、注目すべきことは、この高率は、全般的にみて、28年2月以降始めてみられたところであり、又、米国西岸に於いても、今年はビンナガが非常に好漁であり、今後、検討してゆく必要がある。

体長組成は、南海々区と西部太平洋亜熱帯海区が2月より稍型が小さい。しかし、昨年に比較しては、特に差はみられない。

（クロカワ）

西部太平洋亜熱帯海区のクロカワは不漁期で低率である。

（マカジキ、メカジキ）

マカジキは西部太平洋亜熱帯海区も不漁期に入り全般的に低率である。メカジキは伊豆諸島東方海区は低下途上であるが、釣獲率0.33で既に不漁期に入つている。30°—35°N, 150°—180°Eの海域は調査されなかつたが、好漁期乃至は好漁期直前と思われるので、0.5程度の率は示したであろうと推察される。

E 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

調査された海域及び海流は漁場圖を参照のこと。

（キハダ）

沿海北部170°E以西は秋季の好漁期が過ぎて、2月は不漁期に当るが、0.65で1月より更に高く、秋季の好漁を続けている。同170°E以東も0.69で比較的高いが、初

冬の好漁からの低下途上と思われる。沿海南部5°N以南170°E以西は、31年秋季の注目された最高率4.9からの激減を続け2.3にまで低下した。同以東は1月に既に3.7の高率を示したが、2月には2.8となり、春季の好漁への直前のようである。沿海南部5°N以北、170°E以西は秋季の好漁期を過ぎて不漁期に入り釣獲率0.8、同以東は春季の好漁期に入つたが、以西に比較して非常に低く、釣獲率は0.7で以西と略同率である。

体長組成は、沿海北部が稍型が大きくなつた他は1月と變化ない。

（メバチ）

沿海北部170°E以西は例年より早く、既に不漁となつたが、同以東、及び沿海南部は全般的に好漁期で高率を示している。

体長組成は1月と同形で変化はない。

（クロカワ）

全般的に不漁期で低率である。

F　ソロモン、ニユーカレドニヤ海区漁場

（ソロモン海区）

調査された海域及び海流は漁場圖參照のこと。

（キハダ）

ソロモン海区5°S以北，170°E以西は旧南洋庁沿海5°N以南，170°E以西程急ではないが略同傾向で、秋季の高率から低下して来て4.0、5°—10°S, 170°E以西も11月4.1、1月4.9、2月3.6と、5°S以北に稍近似した変化をたどつている。0°—10°S, 170°E以東は1月より稍低下して2.1となつたが、初夏の好漁期への上昇途上初期に当り次第に上昇する見込み、10°S以南は、晩秋から初冬にかけての好漁期が過ぎ低下し始めたが、3.2でなお好漁である。

体長組成はモードが111—120cmに転じ、1月より稍型が大きい。

（メバチ）

0°—10°S, 170°E以東は1月0.2、2月0.8で好漁期に入り始めたようであるが、例年は2月は既に好漁期末期に当り、3月以降の変化は疑問である。

（ビンナガ）

5°—10°S, 170°E以西は1.0でかなり高率となつた。0°—10°S, 170°E以東は1月の3.3から0.3へと激減した。この海域の變化は未だ明瞭に摑めていないので、今後検討する必要がある。10°S以南は11月から上昇して来て好漁期に入つた、釣獲率は1.7で1月と同率であるが3月以降は多少とも更に上昇する見込みである。

体長組成は1月より稍型が小さく、又、31年1.2.3月に比べても稍小さい。

（クロカワ）

好漁期で全般的に高率である。体長組成は1月より稍型が大きいが、31年2月とは同形である。

（その他のカジキ類）

シロカワ、マカジキ、メカジキ共に不漁期で低率である。

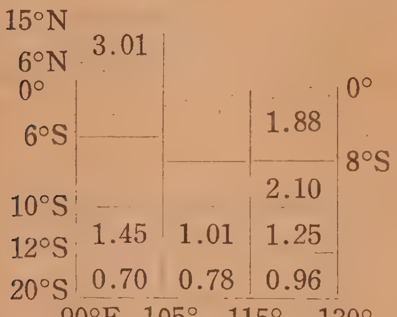
G 東部印度洋漁場

（バンダ、フロレス海区、小スンダ、チモール沿海、ジヤワ沿海、濠洲西方海区、アンダマン、ニユバル海区）

調査された海域及び海流は漁場圖參照のこと。

（キハダ）

圖 1 東部印度洋に於けるキハダの漁況 (32.2)



バンダ、フロレス海区以外は全般的に北よりに高くなつている。特に、その著しい差が、10°S附近にあることは周知の如くである。

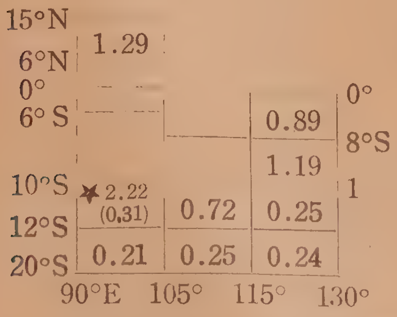
アンダマン、ニユバル海区は、釣獲率3.0で30年6月、31年6．7月と略同率であるが、晩冬から初春にかけては好漁期であり、又、率が年々低下しているように推察され、しかも31年8月—32年1月が調査されなかつたので、この釣獲率が好漁を示すものか、不漁を示すものかは不明である。但し、東部印度洋の他海域に比べれば遙かに高率である。

他の海域は、全般的に好漁期末期である。

体長組成は、バンダ、フロレス海区、小スンダ、チモール沿海は1月と同形、ジヤワ沿海では1月に僅かに出現していた91—100cmの山が2月に到つて著しく大きくなり全体の約半分を占めるようになり、1月に主体を占めていた131—140cmの山が小さくなり、121—140cmにひろがつた。濠洲西方海区に於いては1月にみられなかつた91—100cmの山がかなり出現した。

（メバチ）

圖 2 東部印度洋に於けるメバチの漁況 (32.2)



アンダマン、ニコバル海区の周年變化の傾向は不明、他海域は全般的に不漁期に当り低率である又、周知の如く、10°S以北は以南より高率である。

体長組成は小スンダ、チモール沿海が稍型が小さくなつた他は、1月と同形である。

（ビンナガ）

ビンナガの分布が終年10°Sの南北で異ることは周知のところであるが、2月は更に115°Eの東西でも差がみられ、以西は以東より著

★ この海域は2隻の船が調査されているが、その内の1隻の報告によると、メバチ4.52、ビンナガ0.00といふ結果であるが、この現象は未だ例をみず、注意する必要がある。（　）内の数字はメバチとビンナガが逆であつたと假定した場合で、例年の傾向にあてはまる。注意しつ、參考とされたい。

しく高率である。

115°E 以東は不漁期で低率、同西は春季の好漁期の直前で、かなり好漁となつている。

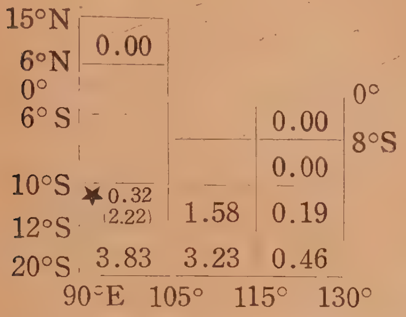


圖 3 東部印度洋に於けるビンナガの漁況 (32.2)

体長組成は小スンダ、チモール沿海は2月と同形、ジャワ沿海は稍型が大きくなつており、モードが91—100cm から101—110cm に移つている。

（インドマグロ）

105°—130°E の海域で、なお比較的好漁が續いており、特に 12°—20°S, 115°—130°E の海域は 2.7 と極めて高いが、盛漁期程ではない。12°S 以南では3月も比較的好漁を示すかもしれないが、以北では、そろそろ全くの不漁に近づくであろう。

（クロカワ）

115°E 以東は不漁、以西はなお好漁期が續いている。但し、12°—20°S, 115°E 以東の好漁期の不漁は疑問である。アンダマン、ニコバル海区は上昇途上であろう。

体長組成はジャワ沿海は1月と同形、小スンダ、チモール沿海はモードが171—180 cm に移り、稍型が小さくなつた。

（その他のカジキ類）

シロカワは、バンダ、フロレス海区は1月の高率1.35から激減して0.10で不漁、他海域も全般的に不漁である。20°S 以南は調査されていないが、おそらく、0.6—0.7程度の率は示したであろう。マカジキは、アンダマン、ニコバル海区は不漁期で低率、バンダ、フロレス海区以外の他の海域も秋季の好漁期が過ぎて不漁である。

H 中、西部印度洋漁場

（中部印度洋海区、西部印度洋海区）

調査された海域及び海流は漁場圖を參照のこと。

（キハダ）

西部印度洋海区の西端、7°—8°S, 45°—46°E の海域は 7.5 と極めて高いが、他は両海区とも全般に1月よりかなり激減した。又、中部印度洋海区は 10°S の南北で異り、以北 4.1、以南 2.3、西部印度洋海区は、キハダの差は少い。

中部印度洋の体長組成は、121—130cm の山は変化ないが、1月に 141—150cm にあつた山が 151—160cm に移り、型が大きくなつている。

（メバチ）

中部印度洋海区は好漁期で 1.00、西部印度洋海区は好漁期を過ぎて不漁 0.63 である。

（ビンナガ）

両海区とも 10°S の南北でかなり異る。中部印度洋海区は好漁期、西部印度洋海区

は上昇途上に当るが、釣獲率は圖4に示す。

圖4中、西部印度洋のビンナガの漁況 (32.2)

10°S	0.50	0.49
	2.20	3.22

猶、9°S線の両海区の境の附近は、1．2月共、キハダ、ビンナガの両魚種が多獲されて居り、注目すべき海域である。

体長組成は1月より僅かに型が大きい。

（クロカワ）

中部印度洋海区は上昇途上、西部印度洋海区は好漁期に入つた。

（シロカワ、マカジキ）

両海区、両漁種とも好漁期を過ぎ、不漁である。

I 大西洋漁場

（ギアナ東北海区）

調査され始めたが、未だ、傾向は不明である。凡その状況を知りたい方は、本誌42号21頁を参照のこと。

31年12月象牙海岸西南の漁況が既に調査されているので、32年2月の漁況と共に表1に示す。

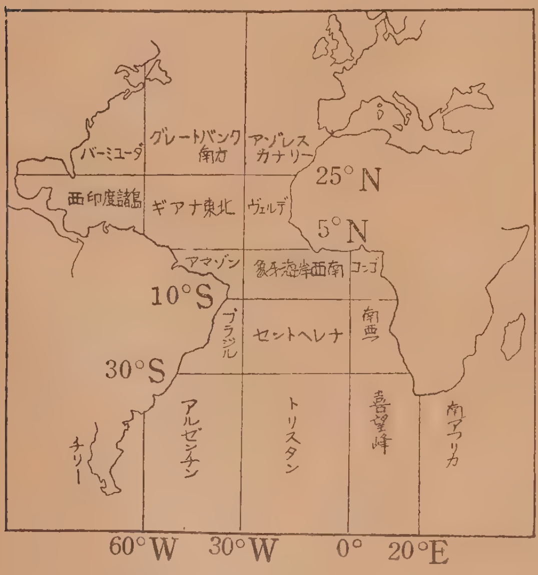

バーミューダ
グレートバンク南方
アゾレスカナリー
25°N
西印度諸島
ギアナ東北
ヴェルデ
5°N
アマゾン
象牙海岸西南
コンゴ
10°S
ブラジル
セントヘレナ
南西
30°S
アルゼンチン
トリスタン
喜望峰
南アフリカ
チリー
60°W
30°W
0°
20°E

表1大西洋の漁況

海区	海域	年月	キハダ	メバチ	ビンナガ	★クロカワ	★マカジキ	メカジキ
象牙海岸西南	5°—6°N 25°—27°W	31.12	5.30	0.46	9.28	0.64	0.68	0.06
ギアナ東北	5°—7°N 43°—45°W	32.2	7.64	0.61	1.85	0.42	1.52	0.01

★ クロカワ、マカジキと呼んでいるのでそのまゝ整理したが、これが太平洋のクロカワ、マカジキと同一種であるか否かは未だ疑問である。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
0°— 15°S 140°W以東	3°— 7°S 142°—124°W	6 (1)	25.2 26.8		147	59795	273184	尾数 釣獲率	9842 3.60	10299 3.77
30°— 40°N 180°—140°W	30°— 31°N 170°—157°W	1	17.2 19.5		24	8640	34560		3 0.01	1282 3.71
ミッドウエー	28°— 30°N 179°—169°W	5	17.5 20.7		118	40495	200535		50 0.02	4417 2.20
ハワイ南西 (5°N以北)	9°— 10°N 178°E—170°W	5	26.4 28.0		114	40224	174934		642 0.37	5710 3.26
0°— 15°S 160°—140°W	6°— 16°S 162°—138°W	3	26.3 28.5		74	28910	139040		2830 2.04	453 0.33
タヒチ	14°— 19°S 143°—139°W	1 (1)	28.3 29.2		62	21423	100452		1243 1.24	106 0.11
伊豆東方	29°— 34°N 139°—149°E	9	17.4 19.8		127	17390	108590		45 0.04	535 0.49
南海々区	29°— 33°N 134°—139°E	4	17.8 20.5		61	10420	71644		78 0.11	323 0.45
西部太平洋	20°— 31°N 129°—178°E	51 (1)	17.2 24.8		865	203845	1209324		554 0.05	3591 0.30
南洋北部	9°— 21°N 136°—177°E	3	26.6 27.9		48	16220	72090		485 0.67	1123 1.56
南洋南部 (170°E以西)	1°S—11°N 129°—171°E	27	25.3 30.0		493	163871	726184		9480 1.31	8260 1.14
南洋南部 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—180°E	7	26.6 29.6		145	51386	224114		2876 1.28	4979 2.22
ソロモン	2°N—15°S 141°—176°E	19 (1)	26.8 30.0		393	139265	659806		22789 3.45	3311 0.50
バンダフロレス	0°— 6°S 124°—126°E	1	28.0 29.4		15	5763	28449		536 1.88	252 0.89
小スンダチモール	7°— 17°S 117°—125°E	7	27.4 30.8		120	44197	192836		2113 1.10	668 0.35
ジヤワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	2	27.7 29.2		41	14976	59904		519 0.87	258 0.43
濠洲西方	9°— 19°S 97°—119°E	9 (2)	27.4 31.1		174	64811	291644		2785 0.95	1690 0.58
アンダマンニコバル	5°— 8°N 91°— 92°E	1			20	7000	35000		1053 3.01	453 1.29
中部印度洋	0°— 12°S 70°— 91°E	14 (2)	26.7 29.8		455	183371	836352		28980 3.47	8330 1.00
西部印度洋	0°— 15°S 45°— 72°E	4 (1)	26.8 29.4		171	74412	343298		18072 5.26	2156 0.63
ギアナ東北	5°— 7°N 43°— 45°W	1	26.4 26.8		18	6510	26040		1990 7.64	160 0.61
合計	**21**	180 (9)			3685	1202924	5807980		106965 1.84	58356 1.00

（昭和32年2月操業分）

（別表1）

ぐ	ろ		か	じ	き			かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
3			725	40	46	58	11	73	234		21331	鮫未調査隻数6
0.00			0.27	0.01	0.02	0.02	0.00	0.03	0.09		7.81	体長測定隻数3
49			2		18	18				14	1386	0
0.14			0.01		0.05	0.05				0.04	4.01	1
2817			3		124	178		80	43	217	7929	4
1.40			0.00		0.06	0.09		0.04	0.02	0.11	3.95	5
7			382	11	78	17	22	52	319	224	7464	4
0.00			0.22	0.01	0.04	0.01	0.01	0.03	0.18	0.13	4.27	4
1858			1057	19	13	6	15	168	375	85	6879	2
13.4			0.76	0.01	0.01	0.00	0.01	0.12	0.27	0.06	4.95	2
1373			2331	12	16	5	12		435	180	5713	0
1.37			2.32	0.01	0.02	0.00	0.01		0.43	0.18	5.69	1
2849			1		21	357		5	20	1515	5348	1
2.63			0.00		0.02	0.33		0.00	0.02	1.40	4.92	8
4049					24	27		8	8	138	4655	0
5.65					0.03	0.04		0.01	0.01	0.19	6.50	2
64476	15		48	1	707	583	38	434	242	1116	71805	21
5.33	0.00		0.00	0.00	0.06	0.05	0.00	0.04	0.02	0.09	5.94	20
9			156	1	39	10	3		145	183	2154	1
0.01			0.22	0.00	0.05	0.01	0.00		0.20	0.25	2.99	2
224	2		1864	34	326	52	197	167	1548	1024	23178	15
0.03	0.00		0.26	0.00	0.04	0.01	0.03	0.02	0.21	0.14	3.19	21
84			796	17	69	24	32	30	313	255	9475	6
0.04			0.36	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	0.14	0.11	3.44	5
4351			2167	119	94	31	580	63	582	172	34259	16
0.66			0.33	0.02	0.01	0.00	0.09	0.01	0.09	0.03	5.19	10
			14	32	5	8	35				882	1
			0.05	0.11	0.02	0.03	0.12				3.10	1
779		4829	196	382	22	43	31		52		9115	7
0.40		2.50	0.10	0.20	0·01	0.02	0.02		0.03		4.73	5
1551		654	247	93	10	13	4	14	29		3392	2
2.59		1.09	0.41	0.16	0.02	0.02	0.01	0.02	0.05		5.66	2
2919		5617	649	654	47	76	25	76	151	169	14858	7
1.00		1.93	0.22	0.22	0.02	0.03	0.01	0.03	0.05	0.06	5.09	8
			153		22	28					1709	1
			0.44		0.06	0.08					4.88	0
11391			1962	549	486	189	398	230	721	556	53792	12
1.36			0.23	0.07	0.06	0.02	0.05	0.03	0.09	0.07	6.43	7
2840			1097	130	428	86	87	1	15		24912	4
0.83			0.32	0.04	0.12	0.03	0.03	0.00	0.00		7.26	0
481	1		109		396	2	87	24	110		3360	1
1.85	0.00		0.42		1.52	0.01	0.33	0.09	0.42		12.90	0
102110	18	11100	13959	2094	2991	1811	1577	1425	5342	5848	313596	111
1.76	0.00	0.19	0.24	0.04	0.05	0.03	0.03	0.02	0.09	0.10	5.40	107

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年2月操業分）

（別 表 2）

魚種	測定船数	漁　　場	操業位置	操業回数		50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	3	0°—15°S 140°W以東	3°—6°S 132°—124°W	69	尾数 %							1 0.2	6 1.1	29 5.1	101 17.9	251 44.4	64 11.3	113 20.0		565 100	4473
	5	ミッドウエー	28°—30°N 179°—169°W	118						1 2.4	7 17.1	2 4.9	13 31.7	10 24.4	2 4.9	3 7.3	3 7.3			41 100	50
	4	ハワイ南西 （5°N以北）	9°—10°N 179°E-170°W	83								10 6.1	54 32.9	51 31.1	31 18.9	15 9.1	2 1.2	1 0.6		164 100	381
	1	0°—15°S 160°—140°W	7°—8°S 151°—138°W	13									2 1.1		21 11.7	99 55.3	39 21.8	18 10.1		179 100	925 (1396)
	6	伊豆東方	29°—33°N 139°—149°E	83					1 2.8	1 2.8	5 13.9	7 19.4	12 33.3	4 11.1	1 2.8	4 11.1	1 2.8			36 100	40
	2	南海々区	29°—31°N 134°—138°E	29				3 15.0	2 10.0	6 30.0	2 10.0		1 5.0	5 25.0	1 5.0					20 100	20
	16	西部太平洋	21°—31°N 131°—178°E	293				7 5.7	31 25.4	25 20.5	14 11.5	7 5.7	18 14.8	12 9.8	4 3.3	2 1.6	2 1.6			122 100	129
	2	南洋北部	9°—12°N 136°—177°E	38						10 6.5	13 8.5	5 3.3	48 31.4	62 40.5	14 9.2	1 0.7				153 100	417
	21	南洋南部 （170°E以西）	2°S—11°N 139°—171°E	393				49 2.0	59 2.4	39 1.6	74 3.0	423 17.0	1036 41.5	508 20.4	128 5.1	135 5.4	36 1.4	7 0.3	1 0.0	2495 100	7196
	5	〃　〃 （170°E以東）	1°—10°N 167°—180°E	101				44 9.3	46 9.7	27 5.7	11 2.3	46 9.7	180 38.1	78 16.5	26 5.5	12 2.5	2 0.4			472 100	2475
	10	ソロモン	2°N—13°S 141°—176°E	196				34 1.6	42 1.9	7 0.3	119 5.5	227 10.4	1001 45.9	443 20.3	202 9.3	83 3.8	25 1.1			2183 100	10743 (10826)
	1	バンダ フロレス	0°—6°S 124°—126°E	15							1 1.4	16 21.6	19 25.7	16 21.6	12 16.2	9 12.2	1 1.4			74 100	536 (600)
	5	小スンダ チモール	7°—17°S 117°—125°E	90				1 0.2	4 0.7	9 1.6	32 5.6	37 6.4	115 20.0	188 32.6	105 18.2	66 11.5	19 3.3			576 100	1885
	2	ジヤワ沿海	8°—15°S 103°—109°E	41					1 0.9	1 0.9	38 33.0	10 8.7	5 4.3	23 20.0	24 20.9	13 11.3				115 100	519
	8	濠洲西方	10°—19°S 97°—119°E	141						27 2.7	121 12.1	72 7.2	114 11.4	173 17.2	200 19.9	236 23.5	58 5.8	2 0.2		1003 100	2449

	7 (1)	中部印度洋	0°— 12°S 74°— 91°E	200				2 0.1	3 0.2	20 1.0	88 4.4	56 2.8	158 8.0	433 21.8	322 16.2	352 17.7	463 23.3	87 4.4		1984 100	10182 (11312)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
めばち	3 (1)	0°— 15°S 140°W以東	3°— 6°S 132°—124°W	80	尾数 %			2 0.4		1 0.2	2 0.4	10 2.0	10 2.0	36 7.3	50 10.1	72 14.5	129 26.0	78 15.7	106 21.4	496 100	5430 (5550)
	1	30°— 40°N 180°—140°W	30°— 31°N 170°—157°W	24				12 3.3	10 2.7	28 7.7	146 40.0	31 8.5	15 4.1	1 0.3	16 4.4	52 14.2	38 10.4	16 4.4		365 100	1282
	5	ミッドウエー	28°— 30°N 179°—169°W	118			4 0.4	33 3.0	37 3.3	434 38.8	412 36.9	58 5.2	10 0.9	27 2.4	53 4.7	30 2.7	12 1.1	6 0.5	2 0.2	1118 100	4417
	4	ハイワ南西 (5°N以北)	9°— 10°N 179°E–170°W	83						8 1.1	89 11.7	137 18.1	89 11.7	87 11.5	130 17.1	115 15.2	66 8.7	29 3.8	9 1.2	759 100	4367
	1	0°— 15°S 160°—140°W	6°— 9°S 162°—150°W	25					4 1.4	1 0.4	6 2.2	7 2.5	14 5.0	36 12.9	140 50.2	53 19.0	14 5.0	4 1.4		279 100	279
	1	タヒチ	18°— 19°S 143°—139°E	45										3 3.7	24 29.6	27 33.3	26 32.1	1 1.2		81 100	81
	8	伊豆東方	29°— 33°N 139°—149°E	119					15 3.4	224 50.3	57 12.8	52 11.7	61 13.7	16 3.6	8 1.8	10 2.2		1 0.2	1 0.2	445 100	493
	2	南海々区	29°— 31°N 134°—138°E	29				2 2.0	20 20.2	60 60.6	9 9.1	2 2.0	3 3.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0				99 100	106
	20	西部太平洋	21°— 31°N 131°—178°E	361			42 3.8	56 5.1	47 4.3	299 27.1	232 21.0	124 11.2	50 4.5	58 5.3	118 10.7	52 4.7	20 1.8	5 0.5	1 0.1	1104 100	2023
	2	南洋北部	9°— 12°N 136°—177°E	38			2 1.1			10 5.3	71 37.4	19 10.0	21 11.1	28 14.7	19 10.0	10 5.3	9 4.7		1 0.5	190 100	1010
	20	南洋南部 (170°E以西)	2°S— 11°N 139°—171°E	375			39 1.8	3 0.1	38 1.7	296 13.5	301 13.6	210 9.6	310 14.2	490 22.4	321 14.7	130 5.9	30 1.4	12 0.5	8 0.4	2188 100	6281
	5	〃 〃 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—180°E	101			37 5.7	23 3.5	14 2.1	61 9.4	74 11.3	73 11.2	61 9.4	83 12.7	110 16.9	71 10.9	24 3.7	21 3.2		652 100	3128
	9	ソロモン	2°N—15°S 141°—176°E	180			22 4.2	1 0.2	38 7.3	76 14.7	97 18.7	49 9.5	56 10.8	66 12.7	71 13.7	37 7.1	1 0.2	4 0.8		518 100	1569
	1	バンダ ソロレス	0°— 6°S 124°—126°E	15						3 4.4	4 5.9	11 16.2	20 29.4	2 2.9	19 27.9	8 11.8	1 1.5			68 100	252 (270)
	5	小スンダ チモール	7°— 17°S 117°—125°E	90				2 0.9		2 0.9	33 14.5	43 18.9	77 33.9	38 16.7	26 11.5	6 2.6				227 100	500

めばち	2	ジャワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	41			1	2		8	12	22	22	23	14	5	1	1	5	116	258
							0.9	1.7		6.9	10.3	19.0	19.0	19.8	12.1	4.3	0.9	0.9	4.3	100	
	8	濠洲西方	9°— 19°S 97°—119°E	138				5		15	96	124	104	69	91	74	22	9	3	612	1616
								0.8		2.5	15.7	20.3	17.0	11.3	14.9	12.1	3.6	1.5	0.5	100	
	7 (1)	中部印度洋	0°— 12°S 74°— 91°E	200			8	4	9	43	88	137	180	188	180	159	38	3	1	1038	4352
							0.8	0.4	0.9	4.1	8.5	13.2	17.3	18.1	17.3	15.3	3.7	0.3	0.1	100	(4915)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		40 cm 以下	41 —50	51 —60	61 —70	71 —80	81 —90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 cm 以上					計	漁獲尾数
びんなが	1	30°— 40°N 180°—140°W	30°— 31°N 170°—157°W	24	尾数					1	10	20	17	1						49	49
					%					2.0	20.4	40.8	34.7	2.0						100	
	4	ミッドウエー	28°— 30°N 179°—169°W	96				5	9	20	90	106	73	15	3					321	2817
								1.6	2.8	6.2	28.0	33.0	22.7	4.7	0.9					100	
	1	0°— 15°S 160°—140°W	6°— 9°S 162°—150°W	25							7	36	1							44	171
											15.9	81.8	2.3							100	
	5	伊豆東方	29°— 33°N 139°—149°E	67				1	36	85	47	12	1	1						183	1770
								0.5	19.7	46.4	25.7	6.6	0.5	0.5						100	
	2	南海々区	29°— 31°N 134°—138°E	29					19	151	28									198	2611
									9.6	76.3	14.1									100	
	20 (1)	西部太平洋	21°— 31°N 131°—178°E	366					18	863	989	88	34	23	1					2016	24030
									0.9	42.8	49.1	4.4	1.7	1.1	0.0					100	
	1	南洋北部	10°— 12°N 136°—139°E	14								3	2	2						7	7
												42.9	28.6	28.6						100	
	6	南洋南部 (170°E以西)	1°S— 10°N 139°—161°E	106							22	20	11	11						64	71
											34.4	31.3	17.2	17.2						100	
	4	〃 〃 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—179°E	74							10	30	10	5						55	82
											18.2	54.5	18.2	9.1						100	
	7	ソロモン	2°N— 15°S 153°—176°E	144						4	175	152	23	3						357	2647
										1.1	49.0	42.6	6.4	0.8						100	(2647)
	4	小スンダ チモール	7°— 17°S 117°—125°E	75							5	98	8							111	510
											4.5	88.3	7.2							100	
	2	ジャワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	41							1	73	125	1						200	1551
											0.5	36.5	62.5	0.5						100	
	7 (1)	濠洲西方	9°— 19°S 98°—119°E	131						3	25	171	211	1						411	2185
										0.7	6.1	41.6	51.3	0.2						100	(2185)

	5	中部印度洋	2°— 12°S 74°— 91°E	128						10 2.5	100 24.5	252 61.8	46 11.3						408 100	6022

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120 cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm以上	計	漁獲尾數
くろ鮪	2	西部太平洋	21°— 30°N 141°—158°E	40									2 66.7	1 33.3					3 100	3
いんど鮪	5	小スンダチモール	7°— 17°S 117°—125°E	90			21 2.9	241 33.5	317 44.0	133 18.5	7 1.0	1 0.1							720 100	3024
	2	ジャワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	41	1 0.6	4 2.2	7 3.9	49 27.4	57 31.8	26 14.5	7 3.9	13 7.3	3 1.7	2 1.1	2 1.1	7 3.9	1 0.6		179 100	654
	7 (1)	濠洲西方	9°— 19°S 98°—119°E	131		8 0.7	59 4.9	373 31.3	483 40.2	247 20.5	29 2.4	3 0.2							1202 100	4594

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回数	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾數
くろかわ	3	0°— 15°S (140°W以東)	3°— 6°S 132°—124°W	69 尾数 %			1 0.4	9 3.3	58 21.0	44 15.9	47 17.0	19 6.9	25 9.1	23 8.3	15 5.4	17 6.2	10 3.6	4 1.4	4 1.4	276 100	357
	1	30°— 40°N 180°—140°W	30°— 31°N 170°—157°W	24															2 10.0	2 100	2
	2	ミッドウエー	28°— 30°N 179°—169°W	49					1 50.0						1 50.0					2 100	2
	4	ハワイ南西 (5°N以北)	9°— 10°N 179°E-170°W	83	4 2.5	19 11.9	20 12.5	31 19.4	36 22.5	13 8.1	4 2.5	12 7.5	9 5.6	3 1.9			1 0.6	2 1.3	6 3.8	160 100	277
	2	0°— 15°S 160°—140°W	6°— 9°S 162°—138°W	38	1 0.8	1 0.8		5 4.0	12 9.6	15 12.0	15 12.0	9 7.2	19 15.2	13 10.4	12 9.6	5 4.0	10 8.0	7 5.6	1 0.8	125 100	260 (312)
	2	タヒチ	14°— 19°S 143°—139°W	62		2 0.8	3 1.3	3 1.3	54 22.7	91 38.2	41 17.2	20 8.4	11 4.6	7 2.9	4 1.7	2 0.8				238 100	2331 (2440)
	8	西部太平洋	21°— 31°N 141°—178°E	147					3 15.8		1 5.3	1 5.3	4 21.1	6 31.6	1 5.3	1 5.3			2 10.5	19 100	24
	2	南洋北部	9°— 12°N 136°—177°E	38		5 10.9	7 15.2	10 21.7	17 37.0	1 2.2	2 4.3	1 2.2	1 2.2				2 4.3			46 100	63
	21	南洋南部 (170°E以西)	2°S—11°N 139°—171°E	390	11 1.1	77 7.8	245 24.9	202 20.6	185 18.8	55 5.6	54 5.5	42 4.3	40 4.1	24 2.4	20 2.0	6 0.6	7 0.7	4 0.4	10 1.0	982 100	1314
	5	〃 〃 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—180°E	101	8 3.1	29 11.2	34 13.1	50 19.2	61 23.5	17 6.5	16 6.2	13 5.0	8 3.1	4 1.5	6 2.3	4 1.5	3 1.2		7 2.7	260 100	514

くろかわ	10	ソロモン	2°N—13°S 141°—176°E	196	48 7.3	76 11.5	108 16.4	133 20.2	121 18.3	42 6.4	37 5.6	31 4.7	28 4.2	15 2.3	11 1.7	2 0.3	4 0.6	1 0.2	3 0.5	660 100	1156 (1184)
	5	小スンダ チモール	7°— 17°S 117°—125°E	90		3 2.9	5 4.8	5 4.8	22 21.0	25 23.8	16 15.2	7 6.2	6 5.7	3 2.9	5 4.8	3 2.9	1 1.0	4 3.8		105 100	127
	2	ジャワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	41			1 0.7	1 0.7	40 28.6	43 30.7	23 16.4	6 4.3	9 6.4	5 3.6	3 2.1	3 2.1	2 1.4		4 2.9	140 100	247
	8 (1)	濠洲西方	9°— 19°S 97°—119°E	147	8 2.7	6 2.0	7 2.3	16 5.4	71 23.8	64 21.5	43 14.4	14 4.7	7 2.3	16 5.4	20 6.7	12 4.0	7 2.3	3 1.0	4 1.3	298 100	531 (545)
	7	中部印度洋	0°— 12°S 74°— 91°E	179	1 0.3		8 2.4	16 4.7	89 26.3	72 21.2	54 15.9	19 5.6	20 5.9	18 5.3	12 3.5	13 3.8	9 2.7	4 1.2	4 1.2	339 100	1008 (1030)

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾數
しろかわ	3 (1)	0°— 15°S (140°W以東)	3°— 6°S 132°—124°W	80							2 12.5	3 18.8	2 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	4 25.0	16 100	34 (38)
	2	ハワイ南西 (5°N 以北)	9°— 10°N 178°—170°W	40											1 25.0	1 25.0		1 25.0	1 25.0	4 100	5
	1	0°— 15°S 160°—140°W	6°— 9°S 162°—150°W	25								1 20.0				2 40.0	1 20.0		1 20.0	5 100	15
	1	タヒチ	18°— 19°S 143°—139°W	45							1 50.0			1 50.0						2 100	7
	9	南洋南部 (170°E以西)	2°S—11°N 139°—164°E	168		1 4.3		2 8.7	2 8.7	2 8.7	3 13.0	2 8.7	4 17.4	1 4.3	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3		23 100	27
	4	〃 〃 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—180°E	85				1 9.1			2 18.2	2 18.2				1 9.1	1 9.1	1 9.1	3 27.3	11 100	13
	9	ソロモン	2°N—15°S 141°—176°E	171		1 1.5	2 3.1	5 7.7	5 7.7	6 9.2	13 20.0	5 7.7	7 10.8	8 12.3	3 4.6	1 1.5	2 3.1	1 1.5	6 9.2	65 100	65 (65)
	5	小スンダ チモール	7°— 17°S 117°—125°E	90	2 1.1	13 7.3	20 11.2	15 8.4	8 4.5	11 6.2	20 11.2	22 12.4	26 14.6	12 6.7	14 7.6	7 3.9	7 3.9		1 0.6	178 100	303
	1	ジャワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	25		1 1.8		3 5.4		2 3.6	7 12.5	7 12.5	14 25.0	6 10.7	6 10.7	4 7.1	1 1.8	3 5.4	2 3.6	56 100	66
	7 (1)	濠洲西方	9°— 19°S 98°—119°E	131		8 2.8	17 6.0	5 1.8	7 2.5	15 5.3	46 16.1	42 14.7	58 20.4	19 6.7	22 7.7	27 9.5	9 3.2	3 1.1	7 2.5	285 100	550 (582)
	7	中部印度洋	0°— 12°S 74°— 91°E	179				4 2.9	4 2.9	17 12.2	16 11.5	26 18.7	21 15.1	21 15.1	12 8.6	4 2.9	5 3.6	4 2.9	5 3.6	139 100	246 (254)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾數
まかじき	3	0°—15°S (140°W以東)	3°—6°S 132°—124°W	69						1 12.5	2 25.0	3 37.5	2 25.0							8 100	19
	1	30°—40°N 180°—140°W	30°—31°N 170°—157°W	24	1 5.6	4 22.2	2 11.1				1 5.6	2 11.1		4 22.2	3 16.7	1 5.6				18 100	18
	4	ミッドウエー	28°—30°N 179°—169°W	96							13 14.9	16 18.4	20 23.0	31 35.6	7 8.0					87 100	117
	4	ハワイ南西 (5°N以北)	9°—10°N 179E—170°W	83	1 1.9	5 9.3	16 29.6	5 9.3	1 1.9	7 13.0	7 13.0	5 9.3	4 7.4	1 1.9	2 3.7					54 100	66
	1	タヒチ	18°—19°S 143°—139°W	45										1 33.3	1 33.3	1 33.3				3 100	13
	6	伊豆東方	29°—33°N 139°—149°E	90					1 7.1	1 7.1	2 14.3	1 7.1	5 35.7	2 14.3		2 14.3				14 100	14
	2	南海々区	29°—31°N 134°—138°E	29					1 6.3	4 25.0	5 31.3	2 12.5	2 12.5	2 12.5						16 100	16
	18	西部太平洋	21°—31°N 131°—178°E	324		5 2.1	10 4.2	4 1.7	25 10.5	40 16.8	71 29.8	30 12.6	26 10.9	25 10.5	1 0.4	1 0.4				238 100	272
	1	南洋北部	10°—12°N 136°—139°E	14	2 6.7	11 36.7	9 30.0	1 3.3	4 13.3	1 3.3	1 3.3	1 3.3								30 100	30
	12	南洋南部 (170°E以西)	0°—11°N 139°—166°E	235	2 1.1	30 16.0	55 29.4	6 3.2	24 12.8	18 9.6	19 10.2	14 7.5	9 4.8	6 3.2	2 1.1	1 0.5	1 0.5			187 100	251
	2	〃 〃 (170°E以東)	3°—10°N 169°—179°E	31		4 16.7	14 58.3	2 8.3	1 4.2	1 4.2	1 4.2	1 4.2								24 100	24
	3	ソロモン	2°N—13°S 166°—176°E	57		1 3.3	10 33.3	6 20.0	4 13.3	2 6.7			2 6.7	2 6.7	3 10.0					30 100	30 (30)
	1	バンダ フロレス	0°—6°S 124°—126°E	15					2 33.3	2 33.3	2 33.3									6 100	5 (6)
	5	小スンダ チモール	7°—17°S 117°—125°E	90					4 22.2	3 16.7	5 27.8	1 5.6	3 16.7	2 11.1						18 100	21
	1	ジヤワ沿海	8°—15°S 103°—109°E	25	2 10.1															2 100	4
	8	濠洲西方	9°—19°S 97°—119°E	138			1 2.7	2 5.4	6 16.2	6 16.2	11 29.7	4 10.8	4 10.8	1 2.7	1 2.7	1 2.7				37 100	44

	6	中部印度洋	0°— 12°S 74°— 91°E	145			3 2.4	1 0.8	13 10.4	14 11.2	6 4.8	10 8.0	27 21.6	37 29.6	12 9.6	2 1.6				125 100	133 (136)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾數
め	1	0°— 15°S (140°W以東)	4°— 6°S 127°—124°W	28	尾數 %					1 8.3	1 8.3	1 8.3	2 16.7		3 25.0	1 8.3		1 8.3	2 16.7	12 100	17
	1	30°—40° N 180°—140°W	30°— 31°N 170°—157°W	24				1 5.6			2 11.1	2 11.1		1 5.6	2 11.1	3 16.7	3 16.7		4 22.2	18 100	18
	4	ミッドウエー	28°— 30°N 179°—169°W	93		1 1.0	1 1.0	7 6.7	6 5.8	10 9.6	4 3.8	8 7.7	5 4.8	7 6.7	17 16.3	12 1.5	6 5.8	4 3.8	16 15.4	104 100	129
	2	ハワイ南西 (5°N以北)	9°— 10°N 179°—170°W	44		7 58.3	2 16.7	1 8.3				2 16.7								12 100	12
	1	0°— 15°S 160°—140°W	6°— 9°S 162°—150°W	25								1 10.0								1 100	4
か	5	伊豆東方	29°— 33°N 139°—142°E	71			1 0.5	14 7.1	19 9.7	13 6.6	34 17.3	44 22.4	27 13.8	18 9.2	13 6.6	5 2.6	3 1.5	4 2.0	1 0.5	196 100	244
	2	南海々区	29°— 31°N 134°—138°E	29		4 21.1	2 10.5	1 5.3	3 15.8	3 15.8	1 5.3	2 10.5	1 5.3	1 5.3	1 5.3					19 100	19
	18 (1)	西部太平洋	21°— 31°N 131°—178°W	332		14 6.5	4 1.9	14 6.5	26 12.1	22 10.2	21 9.8	24 11.2	24 11.2	9 4.2	13 6.0	12 5.6	8 3.7	5 2.3	19 8.8	215 100	223
じ	1	南洋北部	10°— 12°N 136°—139°E	14		1 20.0		1 20.0			2 40.0	1 20.0								5 100	8
	2	南洋南部 (170°E以西)	0°— 7°N 155°—164°E	29							1 25.0		1 25.0	1 25.0	1 25.0					4 100	5
	4	〃 〃 (170°E以東)	1°— 10°N 167°—180°E	83		5 33.3		1 6.7	2 13.3	1 6.7		1 6.7	2 13.3			1 6.7			2 13.3	15 100	15
き	5	ソロモン	2°N—15°S 153°—176°E	93		2 12.5	2 12.5			2 12.5	2 12.5	3 18.8	1 6.3	2 12.5					2 12.5	16 100	16
	4	小スンダ チモール	7°— 17°S 117°—125°E	75						8 23.5	10 29.4	9 26.5	4 11.8	1 2.9			2 5.9			34 100	34
	1	ジヤワ沿海	8°— 15°S 103°—109°E	25			1 16.7	1 16.7			1 16.7	2 33.3	1 16.7							6 100	6
	6	濠洲西方	9°— 18°S 98°—119°E	102		1 2.5	1 2.5	2 5.0		5 12.5	8 20.0	8 20.0	5 12.5	2 5.0	4 10.0	3 7.5		1 2.5		40 100	44

	5	中部印度洋	2°— 12°S 74°— 91°E	128			6 12.2	3 6.1	2 4.1	2 4.1	6 12.2	6 12.2	5 10.2	8 16.3	4 8.2	6 12.2		1 2.0		49 100	49

※ 正誤　前号15頁中段の魚種欄に（くろまぐろ）とあるわ（いんどまぐろ）の誤につき訂正

鮪類標識放流について

◇ 昭和32年8月1日から9月31日迄の間に放流實施の報告のあつた船数は1隻（18尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
晴和丸	C 1020　C 1026 (C 1022　C 1027 C 1024)　C 1090	32・3・11～ 32・4・3	1°～3° N 67°～70° E	きはだ (1) めばち (6)
〃　〃	C 1021　C 1096 C 1028　(C 1037 C 1031　C 1041) C 1035　C 1541	〃　〃 〃　〃	4°～6° N 74°～78° E	きはだ (2) めばち (9)

日、米鮪類の豊凶と生産について◎

東海大學產業科學研究所水產研究部
井上元男

一、まえがき

従来からビンチヨウ、キハダはサケ、マスに次ぐ輸出魚として、遠洋漁業中の最も安定した高價な魚種とされ鮪漁船の數や性能、或は漁場の開拓など世界に誇り得る発展をしてきたのであるが、近年これら鮪類の魚価は著しく變動し、（第１表參照）又、輸出不振となり、漁業者及び冷凍、罐詰の輸出業者は種々非常な困難な状況に直面している。

才１表　焼津港に於けるビンチヨウ、キハダ魚價

年	ビンチヨウ	ハダキ
31	439	313
30	317	261
29	531	409
28	440	393
27	262	360
26	335	
25	371	

とかく、吾々は、從來よりの慣習から、鮪の魚価は日本に於ける漁獲の豊凶と祝祭日等の季節的需用により決まるのであるから、値に高低があるのは止むを得ないと思い勝ちである。

又、吾々の錯角はビンチヨウ、キハダ等は殆んど日本のみで生産され、何といつても日本が第一であり、外国特に米国の生産量なぞは、たかが知れていると過信しているようである。

最近に至り漸くビンチヨウ、キハダの魚価が輸出先の米国のビンチヨウ、キハダの豊凶や消費の消長によつても決められるのであると分つてきたように思われる。

著者も、以前から日本の鮪漁業が目覚しく発展しているものゝ、何か大切なことが抜けて居り、不安定な感じをいだいていた。この原因が輸出用として鮪は米國其の他の需用に応じて、どれだけ獲れゝば良いのか。輸出先の米国其の他の國の需用量は年間どの位あり、ビンチヨウ、キハダの生産量はどのくらいあるのか等、数量について殆んど不明であり、無知であつたことによると最近に至り、ようやく自覺した次第である。

輸出鮪漁業こそ現水産業に於いて最も近代化されたものであり、年々生産も増加し一定量の水揚が確実になるようになり、所謂、水物商売的な狀態から一應脱却しつゝあると認められてきたのではなかろうか。

然るに近年、せつかく、本土より何千浬の遠洋から種々苦労し、満船して持ち歸つたその鮪が米価の變動に較べて何百倍の甚しい暴落ぶりで、低級な沿岸魚と何等變らない魚価を示すようになつた。

◎　去る八月清水市魚株式会社にて講演発表したもの、要旨に加筆したものである。

魚価の面から見れば、何等、安定性がなく、外貨獲得上重要な輸出鮪漁業が相變らず昔からの水物商賣的な観念で、諦らめられ、見すごされているのである。

吾々水産の研究者は、水物商賣的な水産業を何とか近代産業並みにすることを念願し、不安定な漁獲を克服して、安定した漁業量の確保こそ、第一の要件と研究を進めてきたわけであるが、上記のような漁価の変動では、たゞ獲らすばかりの生産面の研究は片手落ちであり、このような状態が今後も続くならば、せつかく発展してきた鮪漁業が、漁業者自ら漁獲意欲を失い、水物商賣的な惰性から何時までも脱け切れずに自滅する恐れさえも感ぜられるのである。

このように考えてくると、吾国の水産物は獲れるときに大に獲ると云う考えが、輸出実積や輸出枠或は国内消費量と凡そ需用量が限定される鮪類であつても消費や需用量を度外視して生産を擧げるだけ擧げようとしているようである。吾国が経済的に貧困であるから、そうするより仕方ないのだと云つてしまえば、それまでゞあるが、反つてそれによつて、自分自身を大漁貧乏と云う縄で首を締めているのである。

漁獲変動のはなはだしい水産物を対象とする漁業に於ては或は止むを得ない点もあろうが、一応安定した生産量の得られる鮪漁業をも同一視してはならないであらう。

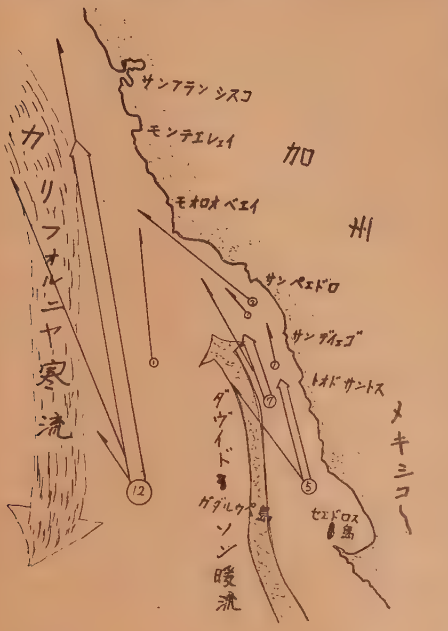
このようなわけで、需用、消費と云う基礎に立つて、或は需用、消費の最終点より逆算して生産を如何にして擧げるかと云う、消費流通を含めた観点から生産面を眺める必要があるように思はれるのである。この報文には主として、米国の需用、生産の一端について述べたつもりである。資料としては米国内務省魚類野生物局発行のカリホルニヤ〃フイシヤリー〃プロダクト〃マンスリー〃サアマリー、同局からのフイシヤリー〃プロダクト〃レポート、フイシヤーマン年鑑、日本鮪罐詰輸出水産業組合発刊鮪罐ニュース、日本罐詰協会発行罐詰時報、農林省農林経済局統計調査部水産統計月報、東京商社社長佐藤隆氏よりの米国鮪事情の書簡、燒津漁業協同組合水揚高統計を使用した。

二、米国に於けるビンチヨウ、キハダ漁業の概観

ビンチヨウ漁場は毎年7月上旬ガダルーペ島の南側より形成され、魚群は次第に沿岸沿いに北上し、年によつては31年度の如く、オレゴン州ニユーポート近くのケープアラゴの沖100浬位いまで達する。盛漁期は7—9月で漁獲物は殆んどサンペエドロサンデイエゴ、アストリア港に陸揚げされる。キハダ漁はメキシコ沿岸から北上し、オレゴン州に至る間ほゞビンチヨウ漁場と隣接して近海に形成されるようである。漁船の数はオレゴン、ワシントン州のサケ、マス、タラ漁から転換して曳縄漁法により鮪操業を行う小型漁船、サンペエドロ、サンデイエゴ港を基地とするクリツパー型の大型漁船（その最大なものは船の全長約50m、鮪約13万貫の急冷保藏の能力を持ち船尾に魚群探索用の輕水上飛行機を持ち、片口いわし等を船上のタンクに新餌活付を行い、舷側より取外し自由の釣り台を吊し2丁乃至3丁の竿釣りでキハダ、ビンチヨウ、カツオ等を釣る。このような船は約178隻ある）や小型ビンチヨウ曳縄船、巾着船等総数約2.000隻あると云われている。漁法は竿釣り、曳縄、巾着網が主で、日本の

ような延縄は民間船では使用されていないようである。日本に異る点は鮪類の魚価が漁期前に罐詰加工業者と漁船側代表との協定により契約されることである。一度契約された魚価は容易に変更されない。従つて日本のように大漁貧乏と云うことはない。

才1圖



ちなみに本年度は屯当りビンチョウ280ドル、クロマグロ240ドル、カツオ230ドル、キハダ270ドルと云つた具合、ビンチョウは前年度350ドルに比して本年は70ドル下落している。この下落の因をめぐつて、日本よりの安い鮪の大量輸入にあるとして現在問題になつている。

三、米國に於けるビンチョウ、キハダの生産と需用について

過去5ヶ年間の米國國内でのビンチョウ生産量即ちカリフホルニヤ州、オレゴン州ワシントン州に水揚げされたビンチョウは第2表の如く貫数に換算して、314—645万貫、5ヶ年平均446万貫である。確かに米国のビンチョウ生産は同表右側欄の日本のそれと比較して少量であり、又、年変動が著しいようである。

一方〔米國の需用量〕は〔米国内での生産量」+〔日本からの罐詰の量（塩水漬、油漬を含む)〕+〔日本からの輸入冷凍鮪の量〕によつて示され平均1.504万貫の需用があることが分る。

29年度は1.702万貫の最高の需用を見た。一方、日本でのビンチョウ生産量は年により年平均の米国需用量とほぼ同じ1.500万貫以上を示すこともあり、日本のみの生産でも米國の需用をまかなえるわけで、その上米國内の生産もあるので、29、30年を除き、日本に対する依存量、(日本からの輸入冷凍鮪量+輸入罐詰量)と較べて37—844万貫と過剰生産されているのである

又、奇しくも日、米共鮪の豊凶は同じように起つているため、日、米豊漁年は日本か

才2表　米国に於けるビンチョウ、キハダ需用量と日米生産量

ビンチョウ　（單位万貫）

年度	輸入冷凍魚	輸入カン詰	日本への依存量○1	米国国内生産量	米国の需用量	日本の生産量	差額○2
31	441	694	1.135	495	1.630	1.564	429
30	799	308	1.107	315	1.422	1.081	—25
29	660	728	1.388	314	1.702	1.382	— 6
28	530	478	1.008	465	1.473	1.378	37
27	321	426	747	645	1.392	1.591	844
平均	550	527	1.077	446	1.504	1.399	256

キハダ

年度	輸入冷凍魚	輸入カン詰	日本への依存量○1	米国国内生産量	米国の需用量	日本の生産量	差額○2
31	705			1.839	2.550	2.050	
30	590			1.495	2.080	1.660	
29	442			1.480	1.929	1.282	
28	117			1.591	1.710	840	
27	45			2.219	2.264	516	
平均	380			1.724	2.106	1.269	

○ 1 輸入冷凍魚はニューヨーク側で輸入した量は含まない
2 数量的には31年度を除き極く少量の見込みである
3 空欄は利用出來るデーターがないことによる

らの輸入冷凍鮪は激減するのであつて、冷凍鮪の輸出不振の基因がこゝにあるようである。

米国に於けるビンチヨウ消費の人氣はともあれ、原料に換算した需用量は年々増加している。米国の年平均446万貫の生産量のみでは需用量をとても満すことは出来ない。それで米国はどうしても日本からビンチヨウを輸入しないわけにはゆかないことをこの表は示している。

キハダについては米国に於いて年平均1.700万貫台を記録し、最高2.219万貫と大きな生産を擧げられることを示している。この記録には我国のキハダ生産量は未だ追付いたことがないのである。ただキハダの需用量は年々増加し、31年度には2.550万貫と急速に伸び消費の人氣はホワイトミートのビンチヨウからライトミートのキハダカツオ等に移行しているようである。

又、キハダは米国以外にも輸出されるので輸出に巾があり、有利な点が多いのであるが米国の豊漁年には我国からの冷凍鮪の輸出などに影響し、ビンチヨウの如く生産過剰氣味になることも豫想される。米国鮪類生産の弱点は殆んど近海で漁獲されるため、魚群が近海に来游して來ないような年には漁獲不漁に落ち入ることにあるようである。米国に於ける鮪類の生産量が大きく変動する原因がこゝにあるのである。

四、米国のビンチヨウの豊凶豫知は可能

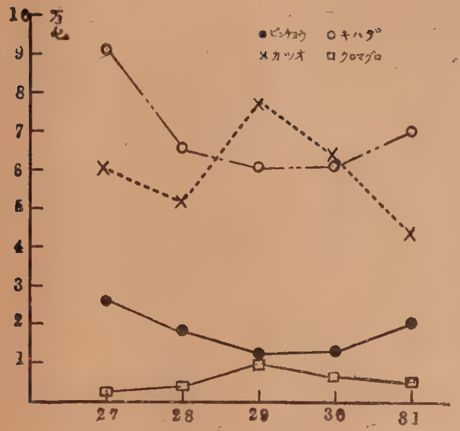
以上でビンチヨウの輸出は生産面から見て米国の豊凶によつて大きな変動を示すことが分かるであらう。この米国でのビンチヨウ漁が日本での漁が了つた7.8 .9月に行われ、漁獲の豊凶が漁期前に全くつかみ得ない状況にあるため、日本で冷凍鮪の輸出枠や罐詰生産枠を決めたり、又、浜渡しの魚価を決める場合に大きな手違いと思惑を生じさせるもとになり、計画性が樹たず、魚価が変動し、非常な不利益をもたらすのである。若しも日、米生産量と需用量が凡そでも豫め判明すれば輸出の見透しも樹てられ、輸出枠だけの数量に対しては米国の鮪漁業者を圧迫させないだけの輸出価格が決められ、その輸出価格から逆算してビンチヨウの浜値価格が、魚質の優劣により等級化され、安定した魚価の線が打出されるはずである。

このような観点から米国全土にて生産されたビンチヨウ、キハダ、クロマグロ、カツオの最近5ヶ年間の資料を調べて見ると第2圖の如くなる。圖から分るようにビンチヨウとキハダ、ビンチヨウとクロマグロの魚種間に非常に興味深い重要な事実が判明した。即ちビンチヨウの生産量とキハダの生産量は順相関、即ち正比例的な関係があり、キハダの大漁の年はビンチヨウ大漁、キハダ不漁の年はビンチヨウ不漁と云うふうになることである。又、ビンチヨウとクロマグロ漁を見るとクロマグロ大漁の年はビンチヨウ大不漁、クロマグロ大不漁の年はビンチヨウ大漁と逆相関、即ち逆比例的な関係を示している。ビンチヨウとカツオの関係はあまりはつきりしない。

著者は之等ビンチヨウとキハダ、クロマグロの魚種間の法則性を米国側ビンチヨウ漁況豫報の原理Ⅰと呼ぶことにしたい。

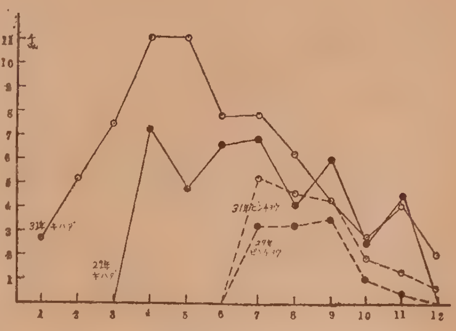
更にビンチヨウとキハダの月別の生産量との間にどのような関係があるか調らべて

才 2 圖



見るに、資料がなく最近3ヶ年の資料より第3圖のような結果を得た。圖を判然とさせる上にビンチヨウの豊漁年の31年と不漁29年の資料を取つて見ると豊漁年に於いてはキハダは終年に亘つて生産されるようである。又、ビンチヨウは7月から盛漁期に入り8.9月と盛漁期が続き12月まで漁があることが分かる圖からして、ビンチヨウ豊漁年と不漁年の顕著な違いはビンチヨウの漁期前1—6月にキハダ豊漁の時はビンチヨウ豊漁で、キハダ不漁の時はビンチヨウも不漁であると云ふことである。ビンチヨウ豊漁年には1—3月の月にもキハダの漁があり、29年度ビンチヨウ不漁年は1—3月はキハダの漁は皆無である。このように1—6月迄のビンチヨウ漁期前のキハダの生産量とビンチヨウ生産量とは順相関即ち正比例的な関係があり、ビンチヨウ漁期前のキハダの状況から、その年のビンチヨウ漁況の豫想が樹てられるように思われるのであつて之を米国側ビンチヨウ漁況豫報原理のIIと呼ぶことにしたい。

才 3 圖



何故このような関係が生ずるのか考察して見ることにしよう。米国ビンチヨウ、キハダ漁は第1圖の如く主として近海漁である。1—6月迄は寒冷なカリフォルニヤ海流が接岸して南下しているため、夏季オレゴン州、ワシントン州沖合まで北上したビンチヨウは冬から春にかけて中層を游泳して南下してくるため延繩等を利用して中層游泳魚を獲らない米国に於いては1—6月の間は漁獲皆無になるわけで、7月になるとカリフォルニヤ海流が岸からやゝ離れて沖合を南下し、代つて沿岸沿いにメキシコ方面から南部カリフォルニヤ沿岸沿いに暖流勢力であるダヴイドソン海流が岸沿いに北上してくる。そうなると海域表層に鮪の餌になる動物性プランクトン類や稚魚が発生し、それを追つて魚群が表層に浮上するようになり、曳繩や巾着によつて、近海でビンチヨウが大量に獲れるようになると考えられる。カリフォルニヤ海流の南下が強く、何時迄も岸近くに張り出して、ダヴイドソン暖流の北上を押えたり、或は全暖流の勢力が弱いと南方から北上してくるキハダ群も少なく、ビンチヨウも中層に潜在しがちになり浮上期も遅れ、漁場範圍も狭く、不漁に了ると考えられる。反対に比較的寒冷水帯を好むクロマグロが接岸来游して大漁を擧げさせるようになる。又、海況狀態がこの反対即ちダヴイドソン暖流が沿岸沿いに強く、北方に何時迄も張り出した年は漁場は長く南北に形成さ

れ、鮪の餌も豊富に、魚群も長く浮上して游泳するようになり、キハダ、ビンチヨウ共に豊漁になると考えられるのである。以上の考察は著者の長年に亘る日本側のビンチヨウ漁場の考察から推して述べたもので、実状は若干異なる点もあろう。

この魚種間の豫報の原理 I II にその時季に於ける米国太平洋岸の海況状態や魚群の分布状態や性状が判明すれば米国のビンチヨウ豊凶の豫想が近き將來日本側に於いても出來ると考えられるものである。

五、今後の鮪類の生産について

米国の鮪類の消費は第3表から分る如くサケ、マス罐詰が年々減少しているのに反し、1955年には1945年の2倍以上の増加をし、目覺しい発展振りを示している。之がため米国政府及び水産調査研究機関の鮪漁業に對する保護育成と漁場開拓に対する熱意は漁業者を勵げまし、生産は増大しつゝあるのである。一方、日本側に於てもビンチヨウ、キハダは沖合から遠洋へと云う政策のもと増産の傾向を辿つている。かゝる現状から今後、消費、販路の擴大のない限り過剩生産による日米鮪業者の深刻な苦惱の波が太平洋の両岸に押寄せ、押返し、果しなく続くように思われる。資源的に見た南北両半球に棲むビンチヨウの底知れない潜在力と近年日米の生産の増加を考える時従来のビンチヨウに対する考え方を變えねばならないであろう。魚質的に見てもビンチヨウの優秀性は他の鮪類と較べて落ちるものでないが。從來米国に於けるビンチヨウに對する價値は幾分稀小価値をも含んでいたのではあるまいか。日米の鮪漁業者及び加工業者は従来からのビンチヨウに對する稀少価値的な高価な魚価を何時迄も持ち続けたいという考え方を捨てねばならないと悟るべきであらう。

オ3表　米国に於けるサケ．マス
マグロ罐詰生産高

年度	サケ マス（函数）	マグロ ケース函数
1945	4.908.240	4.442.101
1946	4.510.167	4.596.629
1947	5.641.398	5.447.554
1948	4.824.966	6.663.619
1949	5.524.926	7.130.453
1950	4.309.804	8.944.598
1951	4.645.573	8.131.274
1952	4.464.347	8.893.889
1953	3.911.859	9.407.059
1954	4.163.147	10.810.849
1955	3.288.961	9.933.580

罐詰時報　32年6月号　P68.—69 參照

さもなければ最近人氣の頂点を行く、量的にも多く獲れるカツオ、キハダ等の他の鮪類と競走して販路を廣く開拓することは不可能になるのではなかろうか。

六、あとがき

今後は鮪類の需用及び生産に関して徹底した詳細な調査からほぼ確かな需用量が出され、それより逆算してその年々の凡その鮪類の生産量を決めるべきではなかろうか。ビンチヨウの生産に関しては日米の漁場及び漁獲の豫知については可成り信頼出來る程度になり、（当研究所発行ビンチヨウマグロ漁場豫報を參照）漁況に関する知識は豊富になりつゝある。旧来のように漁の前途は全く不明であり経験のみに依存する時代は急速に去りつゝあるのであつて、科学的な調査研究が次第に漁業計画性を與えるものと信ずる。ひるがえつて見るに米国の日本に対する鮪類の依存量には限界がある。輸出不振に災いする低魚価は米国漁業者の反撥を買い、そのしわ寄せが再び生産者である漁業者に戻つてくることを考える時、漁業者自身もただ獲るだけでなく、同業者

である米国漁業者から好感を持たれ、友好的に迎えられるよう、安定した魚価の確保に団結し、罐詰、冷凍、貿易業者との協調的な歩みよりで、現在、米国で行われているように浜価の契約を結ぶことが必要であろう。ビンチョウ、キハダ等の輸出魚こそ、そうあつて欲しいものである。それなくしては鮪産業の一環のどれかにひびが出来、健全な近代的な産業構造に発展することは難しいであろう。淺学菲才を顧みず敢えて本文を草するは命懸けで人間性を犠牲にまでして獲つてきた海の寶の価値を進歩的な海洋開拓の精神と共に低下させ、腐さらせないよう願うためである。大方の郷批判を頂ければ幸いである。

終りに臨み、日頃御便宜と御教示を受けた元鮪調査財団東京支部ウイリアム・シー・ネヴイル氏、株式会社東京商社社長佐藤隆氏、同社清水支店長千葉功氏、後藤罐詰株式會社小川清雄氏に謝意を表する。

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯２基完備

（向ケ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産 一七屯 ------ 冷藏収容量 六〇〇屯
製氷能力　日産 五〇屯 ------ 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）609・655 番

本会研究擔當者移動についてのお知らせ

今迄本誌の調査報告を執筆されて居た神奈川水試調査部長野村技師が三崎漁港管理事務所の初代所長として転出、又、全所員に木村技師が転出されました。
新任として渡辺博之（北水出身）小林良雄（東水大出身）の両氏が着任されました。
前任者全様研究担当者として色々執筆して載く事になつて居ります。

尚野村技師、木村技師共転出後も研究会員として本会の爲に御盡力下さることになつて居りますので本会の執筆陣は益々充實して発展することゝ思います。会員各位にも御協力のほど御願い致します。　（伊藤記）

◎ 本会發行の圖書誌を分譲致しておりますから御申込下さい.

會誌　「鮪漁業」　オ6--44号（オ1—5号品切）　{オ6—28各100円　郵送料16円
オ29—44号各150円

鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月）
1部　300円　（B5判150頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月）
1部　400円　（B5判226頁）　郵送料　40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和29年4月　至昭和30年3月）
1部　300円（送料を含む）（B5判126頁）

◇ 上記の昭和28年度、29年、度30年度分3冊一括購入の場合 特價 800円（送料共）

鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
1枚　50円　郵送料　8円

諸官廳船・遠洋漁船・御用

創業五十年
最良の品質
最善のサービス
を誇る　株式会社　安保商店

▷三崎御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します◁

電話（三浦）116番

鮪類漁場別価格 昭和32年4月（三崎）

農林省神奈川統計調査事務所三崎駐在所
農林事務官 佐藤 務

水揚船及び水揚量の構成

今月の鮪類は延縄船62隻（50屯以上）による119万〆強と，これに竿ビン106万〆，若干の突棒カジキで約121万〆の水揚をみた．鮪延縄船の水揚のみでみると，これは昨年同月より約15万〆を上廻っている．（先月比では20万〆減）

イ．屯数階層別，操業漁場別

水揚した鮪船62隻を屯数階層別でみると，大型船（300屯以上）20隻，中型船（200～299屯）8隻，小型船（50～199屯）34隻で，昨年4月に比し小型船の12隻増が目立っており，大型船，中型船はそれぞれ1隻減となっている．

大型船20隻を操業漁場別に分けると，イW13隻，イE1隻，南東E6隻となり，南東Eへの進出が目立つ．（昨年は全部インド洋操業）

中小型船はインド洋（イE主体）10隻，南N10隻，南S3隻．東W15隻，南東W2隻，南東E1隻，近海1隻で，昨年に較べ東Wの増加，南Nの増加が著しい．

漁場別水揚量はイW33万〆，イE21万〆，南N10万〆，南S5.5万〆，東W23.5万〆，南東W3.5万〆，南東E22万〆．近海5千〆，竿ビン1.6万〆である．

昨年に較べインド物は28万〆減，南東E19万〆増，東W17万〆増，南N8万〆増であり，亦昨年千万〆の水揚をみた北は今年は皆無でこの漁場別水揚量はかなりの変動をみている．

ロ．魚種別構成

主な魚種別水揚量はキハダ46.5万〆，メバチ35.5万〆，クロカワ19.1万〆，インドマグロ6.2万〆，ビンナガ（竿ビンを含む）5.8万〆，マカジキ1.7万〆で，東W操業船の増加から昨年4月に較べメバチが16万〆の増加となっている．

魚価概況

今月は花見時ではあり，例年この月の方が3月よりやや魚価がよいようであるが，今年は先月（特に中旬）が殊の外よかったため，一概に今月が高いとはいえない．

調査結果からみた各漁場の主要魚合計の平均価格の先月比では，今月の価格は（図参照）

イW—23円安　イE—9円安　南N—12円高
南S—32円高　東W—53円高　南東E－23円安

となっている．比較的近距離の鮮度肉質のよいものは今月の方が高値であり，鮪類の価格は大体魚価のよい時程上物と下物の値が開くようであるから，このように比較的よい物が値上りをみた今月の魚価は，先月中旬の異常と思われる程の高騰がなければ，例年通り先月比高値であったと考えられる．

しかし魚場別を考えない単なる魚種別（主要漁場のみ）の平均価格を先月に比較してみると，

メバチ—367円で9円高　キハダ—328円で32円安
クロカワ—404円で21円高

であって，キハダにあっては大部分を占めるインド物，南東E物の値下りから1割方安値となった．メバチは東Wの値上り加えての増加で若干高値であり，クロカワは水揚減からかこれも先月比高値であった．

主要魚を合計した総平均価格は先月の360円より8円安の352円である．

魚種別（主要漁場のみ）平均価格の昨年比では

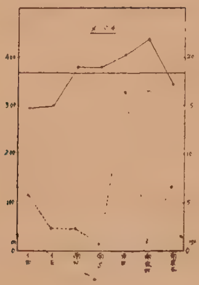
ビンナガ—320円で88円安（細物）　メバチ—367円で15円高　キハダ—328円で5円高　クロカワ—404円で38円高　インドマグロ—300円で36円安

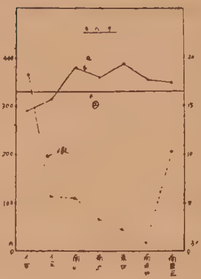
で，ビンナガ，インドマグロを除き一応高値となっているが，前述した通り，メバチでは東Wの増加，キハダではインドの減少，南東Eの増加があるので，一概に昨年より高値とはいい切れないようであるし，クロカワの1割高はあってもビンナガの2割安は大きい．

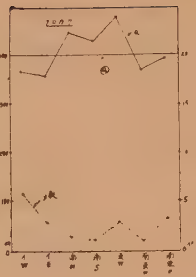
概して今月の魚価は旬別の差はあまりなく，例年通り堅調であったようである．

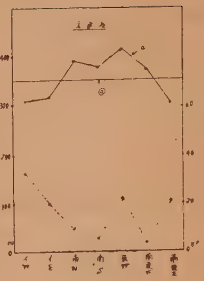
漁場別，魚種別価格（図参照）

メバチ——東Wは量的にも多いが良質物多くかなりの高値である．この東Wより南東Wは（量的には少いが）37円高を示し奇異に思えるが，南東Wといっても操業漁場は東Wに近く，水揚時期がよかったためかこの高値となった．東Wは量的には昨年比12万〆増ながら6円高の南東Wにあっては昨年のものがずっと南のもので鮮度肉質で劣っていたため，同一漁場といって









も比較は無理であるが 150 円高である．

南Sは南Nと略々同値となっているが，これはこの月の南Sは 0° 線に近い漁場での操業であり，南N，東Wと接近していたためと考えられる．南Nでは昨年がメバチは少く，東W物も少なかったので殊に値がよかったのに対し，今年は東Wの良質物に押されてかあまり値は出ず昨年比 113 円安とかなり安値である．南Sの昨年比は全く同値．

南東Eでは昨年の 307 円が今年は 345 円で38円高となっているが，昨年は量的にも 1 万〆足らずであり，漁場も今年よりかなり西寄りなので比較は無理である．

インド物では先月かなりの高値をみたイEも先月比 2 割方急落し，昨年比10円安となった．イWは昨年比15円安．

先月比ではイW，イE，南N，南東Eが値下りをみ，南S東Wが値上りとなっている．

キハダ——比較的よいものは先月比若干の値上りをみているが，量的に多いイW，南東Eの値下りから漁場別を考えぬ月間平均価格はかなりの下落となっている．

殊に南東Eは水揚半減ながら先月比53円安と急落となっているが，これは先月中旬の異常な高値（464円）でこの差となったと考えられる．

イWは先月中旬に水揚少く．魚価の下押となった下旬に水揚が集中して月間平均価格は大してよくもなかったので，亦南東Eの少ないこの月下旬にかなりの水揚があって比較的好値であったため，水揚量は先月の倍増にも拘らず，先月比24円安にとどまった．

以上の 2 漁場とイEの先月比 8 円安の外は．南N，南S東Wそれぞれ水揚量は 3 万～ 5 万〆であるが 1 割前後の値上りとなっている．

各漁場の昨年比ではイW15円安，イE12円安，南N14円安，南東W15円安と昨年比安値となっているものもあるが，南Sの40円高，東Wの41円高，南東Eの13円高と値上りをみているのもある．もっとも南S，南東Eではメバチでも述べた通り昨年との操業漁場のかなりの相異を考慮に入れなくてはならない．

クロカワ——水揚減（8 万〆）もあってか依然魚価は強調で，平均価格は 400 円台を突破する記録的なものとなった．今月の価格は鮪類が最も好値であった昭和 28 年の 12 月の価格（440円），30年 10 月の価格（421円）には及ばないが，これらに次ぐ高値（404円）である．因みに昭和28年より最近までで 400 円台を突破した月は，28年12月，30年10月と昨年10月（403円）の三月しかない．

各漁場共昨年比においては南Nの外はイW20円高，イE 9 円高，南S45円高，東W46円高，南東W77円高南東E68円高とそれぞれかなりの値上りである．

南Nにあっては今年も高値であるが，昨年比では昨年が殊によかった（500円）ため48円安となった．

先月比ではイW10円安，イE13円安はあるが，南N48円高，南S38円高，東W73円高，南東E27円高と大巾な値上りをみている．大体クロカワにあっては漁場別の価格差は少いのを特徴としているが，この月はかなりの差があった．（昨年4月もこの差は大きかった）

ここに図示してないがこの他では，量的には全く少いがビンナガ，マカジキ，インドマグロ等がある．

ビンナガ—— 300 円台は堅持しているが，夏ビン漁期に近く今月縄物は 320 円で先月比 6 円安となった．一方竿ビンはまだ量的には少いが 359 円で先月比45円高と大きく伸びたが，輸出業者の買控え等も伝えられているので，ここ暫くジリ高ながら値上りを続けてきたこのビンナガも，夏ビン漁期に入れば再び値下りを余儀なくされるのではなかろうか．（竿ビンの昨年比は61円安）

マカジキ——量的には全く少く，昨年比先月比でもイWの 1 割方値下りの外は，各漁場共値上りとなっているが，大半を占めるイWの値下りから漁場別を考えぬ平均価格は先月比 3 円安，昨年比では44円安である．

インドマグロ——量的には先月より若干多いが価格は先月と同値である．昨年は今年より水揚が少なかったが336円であり，今年は36円安の300円であった．

以上のことから綜合して昨年の価格と比較してみると，量的にはかなり減少してきているインド（就中IW）物はクロカワを除き若干安かったのと，南Nが全体的に値下りしている他は概ね鮪類（ビンナガを除く）は若干値はよかったといえるようである．

※註　この調査では冷凍物，直送物は除いてある．

図は漁場別主要魚（ビンナガ，メバチ，キハダ，マカジキ，クロカワ，インドマグロ）の水揚〆数と平均価格である．

漁場分類は3月分参照

◇ ◇ ◇

業界メモ

1957年9月

9月4日　日本鮪漁船のイタリア入港

去る5月三崎を出港して大西洋漁場に向った奥津漁業KK第8全功丸（420屯）は第2次航海を終えてレグホン港（イタリア）に向った．尚同港入港中であった神奈川水試相模丸（700屯）は9月1日大西洋漁場の最終調査に出港した．（港報）

9月5日　磐城丸からの第一報

国際マグロ漁場調査に参加8月6日三崎を出港した福島水試磐城丸（475屯）は8月31日午後クリスマス島南東1600浬（西経134度16分南緯3度20分）につき初縄を行ったが，シャチの被害多くマグロ漁無き旨の連絡があった．（水経）

9月6日　台風がもたらした（？）鮪相場

南方海面にのろのろしていた台風10号のため出港延期の秋田船川水高船川丸（289屯）をはじめ外3隻の鮪漁船が三崎を出港したが，ここ数日間は水揚船も少なく魚価は高騰して2日の平均六百七，八十円，4日四百七，八十円と好相場をよんでおり，ここ当分は高値が続くのではないかと見られた．（神奈川，読売）

9月17日　印度洋本まぐろの水揚

三浦市孝勇丸漁生組合所属第2孝勇丸は印度洋で漁獲した本まぐろ5,000貫（濠州まぐろである）を三崎魚市場に水揚したが鮮度良好で値段もよく高値1370円中値550円から600円で取引された．（港報）

9月19日　マグロ延縄計測実験講演会

三崎船長航海士協会では第21黒潮丸に乗船実験を行った水産庁葉室技官を招いてマグロ延縄計測実験についての講演会を開催した．（港報）

9月22日　冷凍鮪の直輸出再検討

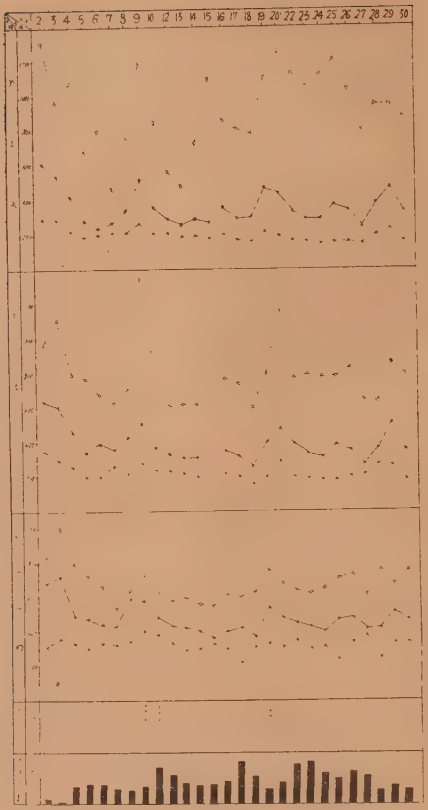
本年春からはじめられた大西洋操業の鮪船のイタリア直輸出は現在までに約7,500屯が水揚された模様である．最近の情報によるとこの直輸出の中には契約を無視したものも出ているといわれ，当局では今週中にも関係商社（日商，大洋，日冷，伊藤忠．丸紅，東綿）を招き早急対策を講ずることとなった．現在まで全冷調べでイタリア直輸出は7,542屯，価格はヘッドレス（頭なし内臓エラ抜き）平均295ドルである．（水経）

9月24日　泉井式新型ラインホーラー実用試験に成功

株式会社泉井鉄工所では鮪延縄の磨耗切断が如何なる原因から最も多く生ずるか等種々研究中であったが，この程サイドローラーその他種々改善して自社所属鮪漁船で印度洋，濠州東海，三陸東方沖合の各方面で試用好成績を挙げた．

9月27日　国際水産会議の開催

二つの国際水産会議が9月27日より10月6日まで開催される．一つはコペンハーゲン（デンマーク）の国際漁業展示会で，他の一つは，ベルゲン（ノルウエー）の海洋資源開発会議である．（水経）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年九月

—— お 願 い ——

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

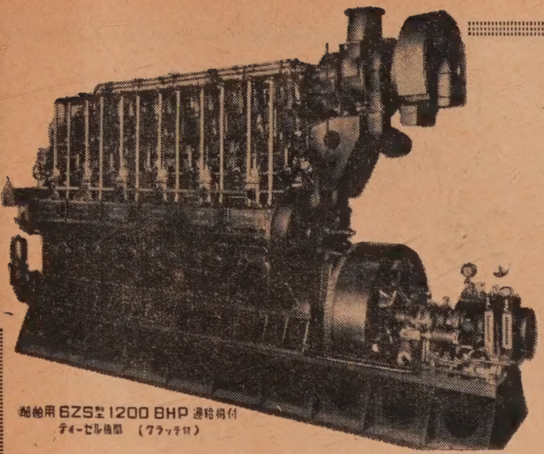
◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎本年三月発行の鮪類水揚地調査報告昭和30年度版は昭和28年度、昭和29年度分と共に鮪漁業教書として関係の方々には是非座右に備付けられるようお薦め致します。御希望の向は代金 300 円（送料を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

◎大変恐縮ですが会費第２年目（昭和30年分1,200円）第３年目（昭和31年分1,700円）未納の方は本会宛払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。

鮪 漁 業
1957年10月号

昭和32年10月10日印刷
昭和32年10月10日発行
監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座横浜　1472）



船舶用6ZS型1200 BHP 過給機付
ディーゼル機関 （クラッチ付）

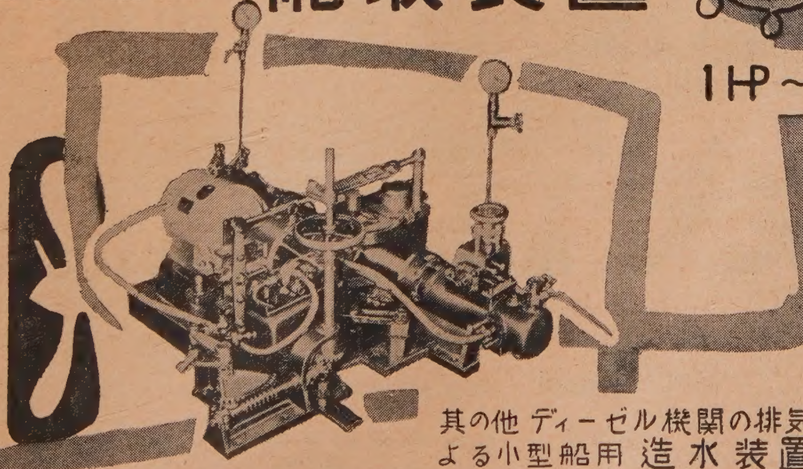
ハンシン
ディーゼル

陸船用デイーゼル

50 HP――2400 HP

阪神内燃機工業株式会社

本社　神戸市長田区一番町3丁目1　電話湊川（5）1531―6
東京支店　東京都千代田区丸ノ内・丸ビル601区　電話和田倉（20）3640―1
下関出張所　下関市豊前田町・第一ビル内　電話 下関 768



川崎ヘルショウ式
電動油圧 **舵取装置**

1HP～3HP

其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目―四（電）湊川(5)7531
東京支店 東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電) (59) 6101
(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎(49)代表2171—9番(49)2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話(36)代表0974—5(36)2171—9（内線350—1）

漁船には専門メーカーの
穂高の漁業無線機を

★　最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

本社　東京都新宿区下落合1—6　TEL(95)2595・6219
大阪営業所　大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル　TEL(44)5792・4109
東京工場　東京都新宿区下落合1—6　TEL(95)2595・6219
長野工場　長野県南安曇郡穂高町2579　TEL(穂高)61
代理店　小樽・函館・八戸・気仙沼・石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・
清水・焼津・室戸・下関

"水産技術者必携の書"

◉画期的『漁業用語英和辞典』出現す!!

農林省水産講習所漁業学科の多年に亘る研究と努力によって集大成された真に生きた必携辞典である。

◆包容語数………………本文約 5,500語
附録約 500語

和文索引，度量衡換算表などを附加する。
10糎×17糎のポケット版，約330頁，表紙は溜色ビニール張り，金文字入の美本。

◆発刊予定期日……………昭和32年11月上旬

◆予約価格 1部につき送料共………約 450 円

◆予約註文受付期限………昭和32年 8 月末日
但し限定出版につき予約註文申込数が予定数に達した場合はこの期限前でも受附を中止することがあるので予め御了承下さい。

印刷の鮮明，装本の堅固，体裁の優美であることは，当社技術陣の矜りとするところで関係各位の予約註文を期待しています

下関市吉見町本町1944
農林省水産講習所漁業学科内
漁業用語英和辞典刊行会

印刷製本者
下関市長崎町2281
瞬報社写真印刷株式会社

専門別執筆者

漁具材料，漁具構成関係	高瀬増男，谷口武夫
沿岸漁業関係	片岡昭吉
遠洋漁業関係	鶴田三郎，角田精一
航海，運用，漁船関係	杉原喜義，橋本市雄，広瀬 誠
漁場，海洋，気象関係	佐藤猛郎
生物関係	前田 弘
時事其の他一般	鶴田三郎
執筆並びに文献に対し種々便宜を賜わった人	朝日向昇平，桜井五郎，千種正則，豊田正謙，巻幡竹夫，渡辺享

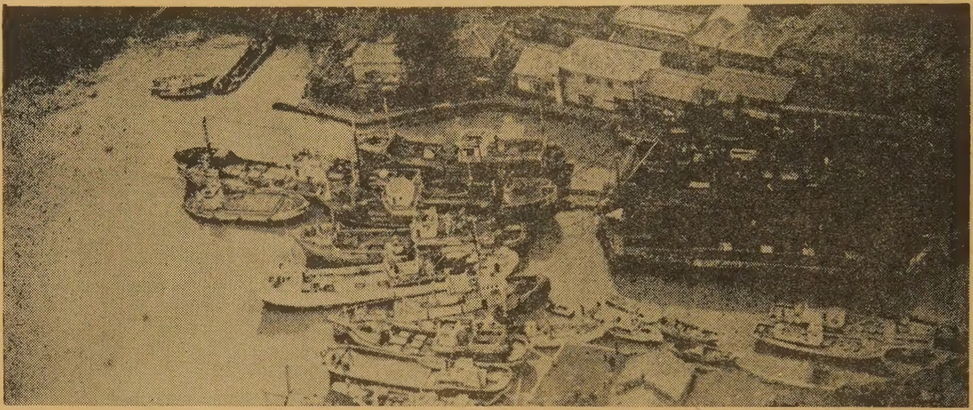
校閲者

専門用語	江良至徳
英 語	勢一 斐
其の他の外国語	国分直一

編集者
鶴田三郎

光電の方探
Koden のロラン
株式會社 光電製作所
東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表1131～7番
Koden Electronics Co. Ltd.

漁船の建造修理の御相談は



総噸数八〇〇噸
長五九米　巾一四米　深六・六米
ドライドツク　一

長四〇米　巾七・五米（四〇〇屯）
船台に使用の場合
二条軌条式（二五〇屯）　二
四条軌条算盤式（五〇〇屯）　二
船架（船台兼用）

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場 電話下田 9・10・53　武ヶ浜工場 電話下田 77・242
東京事務所　港区芝田村町 4 の 13　電話 (43) 2539・8655

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町